



2023 年度 立命館大学寺脇拓ゼミ地域連携・課題解決型プロジェクト

寺脇拓ゼミ

ノスタルジック・デザインによる 廃校・木造校舎カフェ価値向上プロジェクト

報告書

【分析部分抜粋】

2024 年 3 月

立命館大学経済学部 寺脇拓ゼミ

1. はじめに

近年日本では深刻な少子化が進む中、児童数の減少と共に閉校し、「廃校」となる小学校が増えている。中学校や高等学校なども含めれば、毎年約 450 もの廃校施設が発生しており、その中で最も多いのが小学校である（文部科学省，2023a）。明治以降、小学校は地域社会と共に歩んできた歴史を持ち、単なる地域社会の一要素ではなく、それを中心とする学区（校区）を単位に地域コミュニティが形成されてきた（吉田，2006；萩原，2017）。地域の美化活動や防災訓練、祭りなどの伝統行事、そして運動会、文化祭などの地域イベントは、小学校を拠点としてその学区の中で行われることが多い。従って、小学校の閉校はその地域社会の核を失うことになり、社会関係資本の低下と共にその地域の衰退が懸念される。加えて、廃校となった校舎の中には建築物として高い文化的価値をもつものも多くみられる。例えば、長野県松本市で明治 9 年に建築された旧開智学校は、2019 年に近代学校建築として初めて国宝の指定を受けた¹。文化庁の「文化遺産オンライン」で重要文化財、登録有形文化財に絞って「旧」「校舎」で検索すると、108 件もの旧校舎がヒットする²。少子化の中で小学校の閉校は避けられないものの、地域社会において重要な役割を担う小学校校舎を将来に向けてどのように守っていくかが現在重要な社会的課題となっている。

こうした状況を受け、文部科学省は 2010 年に「～未来につなごう～みんなの廃校プロジェクト」を立ち上げ、廃校の有効活用を促して、それを地域再生や文化、観光振興につなげる取り組みを進めている。その活用として近年注目を集めているのが、いわゆる「廃校カフェ」としての活用である。最近のレトロブーム³や SNS の発展と相まって、郷愁を感じさせる廃校施設を使ったカフェが、若年層を中心に幅広い世代を惹きつけている⁴。廃校カフェは地域交流の場となるだけでなく、観光客を呼び込むことにもなるため、上記の課題を解決する活用方法として有効だといえよう。しかしながら後述するように、廃校カフェは一般に立地条件の悪さ、公共交通によるアクセスの難しさゆえに、十分に集客できず、収益化につなげられないという課題を抱えている。それゆえ廃校カフェの持続的な経営に向けては、人々にとってより魅力的な廃校カフェの店舗デザインを探り、それを取り入れることが必

¹ 松本市の観光情報サイト「新まつもと物語」の Web ページ

(<https://visitmatsumoto.com/spot/kaichischool/>) を参照（参照日：2024 年 2 月 15 日）

² 文化庁「文化遺産オンライン」(<https://bunka.nii.ac.jp/>) 参照（参照日：2024 年 2 月 15 日）

³ 崔（2023）を参照

⁴ RETRIP (<https://rtrp.jp/articles/85549/>)、icotto (<https://icotto.jp/presses/9242>)、キナリノ (<https://kinarino.jp/cat8/32826>) などのサイトで廃校カフェの特集が組まれている（参照日：2024 年 1 月 31 日）。

要になるものと思われる。

そこで本研究では、こうしたカフェ活用による旧校舎の保存に向けて、廃校におけるどのような店舗デザインが人々に好まれ、それがどれほどの社会的な価値を生み出すかを金銭的に明らかにすることに取り組む。そしてその際には、「誰しもが通った経験がある」という特性から、小学校の建物に対して人々が感じる「ノスタルジア」に注目し、そのノスタルジアを喚起するデザイン（以下、ノスタルジックデザイン）を取り入れることの有効性を探る。後述するようにノスタルジアマーケティングの研究分野では、ノスタルジアを自身が経験した記憶に基づく「個人的ノスタルジア」と、経験してなくとも懐かしさを感じる「歴史的ノスタルジア」に分類している。とりわけ木造校舎については、現在はそこで児童期を過ごした人々、すなわち個人的ノスタルジアを感じる人々は少なくなっており、今後の保存、継承に向けては歴史的ノスタルジアを感じる人々がそれらの建物にどれほどの価値を見出すかが鍵になる。実際、大学 3 回生からなる当団体の中でヒアリングしたところ、ほぼ全てのメンバーが木造校舎にノスタルジアを感じると回答し、それは幼年期に読んだ絵本や「となりのトトロ」などスタジオジブリのアニメ作品の影響が大きいとのことであった。本研究はこの点に着目し、個人的ノスタルジアを感じる人、すなわち木造校舎を「懐かしむ」人よりも歴史的ノスタルジアを感じる人、すなわち木造校舎に「憧れる」人の方が、廃校カフェにおけるノスタルジックデザインを高く評価するという仮説を立て、その実証に取り組む。

当団体は、分析に必要なデータを集めるため、京都府京丹波町にある旧質美小学校内「喫茶ランチルーム」の皆様の協力のもと、実際にノスタルジアを喚起する店舗デザインを施した廃校カフェを実験的に営業し、その店舗を訪れた利用者を対象にアンケート調査を行った。また、現代的なデザインを取り入れた廃校カフェも知ってもらうため、京都府、奈良県、三重県にある木造校舎を活用した廃校カフェを紹介するパンフレットを作成し、広く配布した。廃校カフェにおけるノスタルジックデザインとしては、40 代以上を対象に行ったヒアリングの結果をもとに、視覚、味覚、聴覚の 3 つの観点からそれぞれ、学校風景の映写、学校給食をベースとしたメニューの提供、リコーダーなどの楽器を使った BGM の演奏を考えた。本研究では、これら 3 つの店舗デザインと廃校カフェまでの旅行費用を組み合わせることで仮想的な木造廃校カフェを作り、選択型実験を用いてそれらに対する選好を問うことで、各店舗デザインに関する効用関数を推定する。さらに、その推定された効用関数を用いて、各店舗デザインが施された廃校カフェに行く代わりに上がっても良いと思う金額、すなわち各店舗デザインに対する支払意思額を計測する。その際には、個人的ノスタルジアを感じる人と歴史的ノスタルジアを感じる人とを識別し、それらの間で廃校カフェの店舗デザイ

ンに対する選好にどのような違いがあるかを定量的に分析する。

本論文の構成は以下の通りである。第 2 章では、研究の背景として少子化の進行と廃校の発生状況を概観し、カフェを中心にその活用の実態を述べる。第 3 章ではノスタルジアマーケティングの分野で蓄積された研究結果を整理し、それを廃校カフェのケースに応用する。第 4 章では、当団体が実験的に営業した「ノスタルジックカフェ」と当団体が作成した廃校カフェを紹介するパンフレットの概要を紹介する。第 5 章では、分析手法として用いた選択型実験の実験デザインと推定モデルを説明する。第 6 章では、アンケート調査の概要を説明した後、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人とに分けて各質問の回答を集計した結果を考察する。第 7 章では、廃校カフェの店舗デザインに関する効用関数の推定結果を示し、当団体が提案するノスタルジックデザインに対する人々の支払意思額を計測する。第 8 章では、本研究で得られた知見とその含意を述べる。さらに補論として、今回の活動資金を集めるために取り組んだクラウドファンディングの概要を紹介する。

2. 廃校施設の増加とその活用

2.1 少子化の現状と廃校施設数の推移

日本では 1973 年の第 2 次ベビーブームを最後に出生率が低下し、約 50 年にわたり少子化現象が続いている。図 2-1 に示されるように、1975 年の日本の総人口は 1 億 1194 万人、その内 0～14 歳までの年少人口が 2722 万人で 24.3%を占めていたのに対して、2022 年の総人口は 1 億 2495 万人、年少人口は 1450 万人となり、その割合は 11.6%にまで低下した。厚生労働省が 2024 年 1 月 23 日に発表した人口動態統計によると、2023 年 1 月から 11 月までの出生数は 69 万 6886 人となり、11 月までの出生数が 70 万人を割るのは、比較可能な 2004 年以降で初となる（日本経済新聞，2024）。

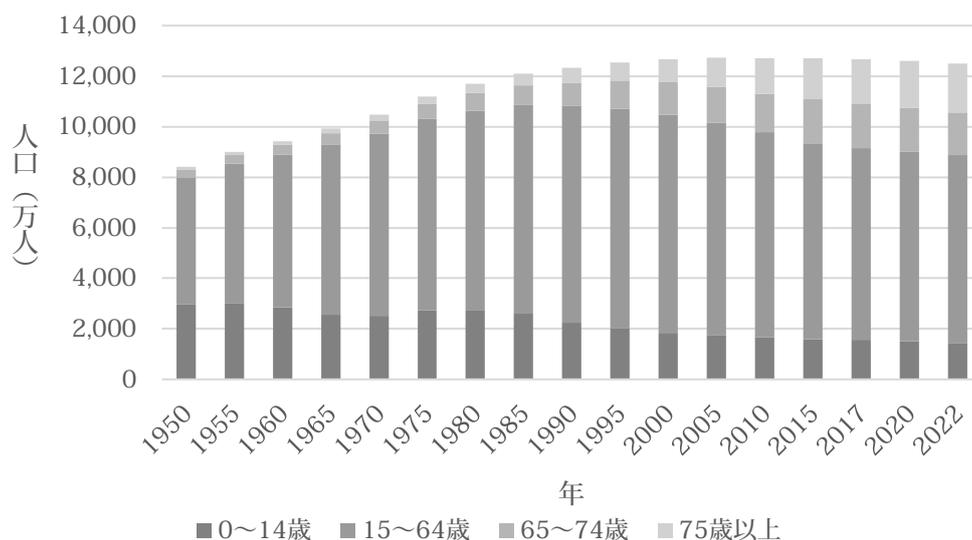


図 2-1 日本の人口構成の推移

出典：内府府（2023）「第 1 章高齢化の状況（第 1 節 1）」より筆者作成

「少子化」とは、統計的には合計特殊出生率（女性が一生の間に産む子供の数）が人口置換水準（長期的に人口が増減しない水準）に達しない状態が継続される状態を指す⁵。「合計特殊出生率」は 15 歳から 49 歳の女性の年齢別出生率を合計することで計算され、この値が人口置換水準である約 2.07 を下回れば、少子化が進行しているものと解釈される⁶。図 2-2 は日本の合計特殊出生率の推移を示したものである。1970 年時点では、合計特殊出生率は人口置換水準を上回る 2.13 であったが、2022 年にはその値は 1.26 にまで低下しており、少子化は極めて深刻な状況にあることが読み取られる。

⁵ Weblio 国語辞典 (<https://www.weblio.jp/>) より検索して引用（参照日：2024 年 1 月 18 日）

⁶ Weblio 国語辞典 (<https://www.weblio.jp/>) より検索して引用（参照日：2024 年 1 月 18 日）

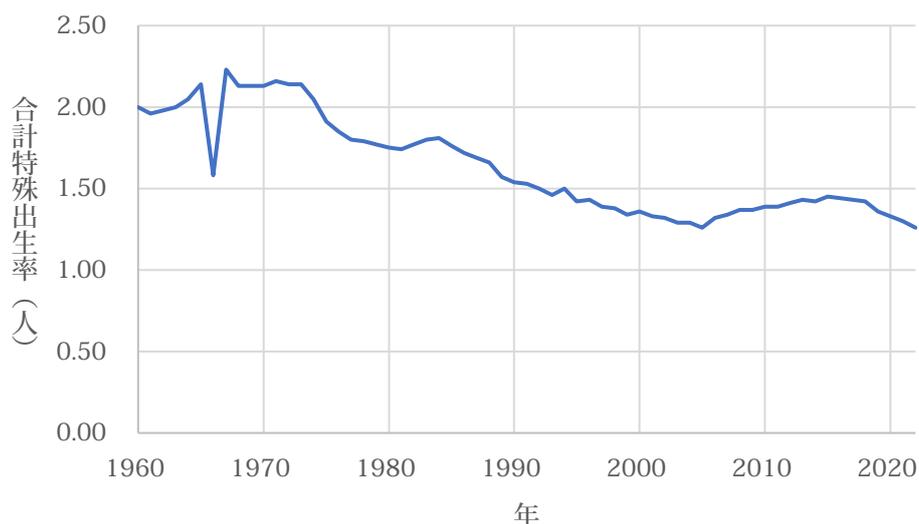


図 2-2 日本の合計特殊出生率の推移

出典：厚生労働省（2023）「出生数・合計特殊出生率の推移」をもとに筆者作成

このような少子化の進行に伴い、児童生徒が通う小学校の数もまた減少している。図 2-3 に示されるように小学校数は 1984 年以降減少の一途を辿っており、1984 年に 2 万 5064 校あった小学校は、2023 年には 1 万 8669 校となり、24.3%減少している。

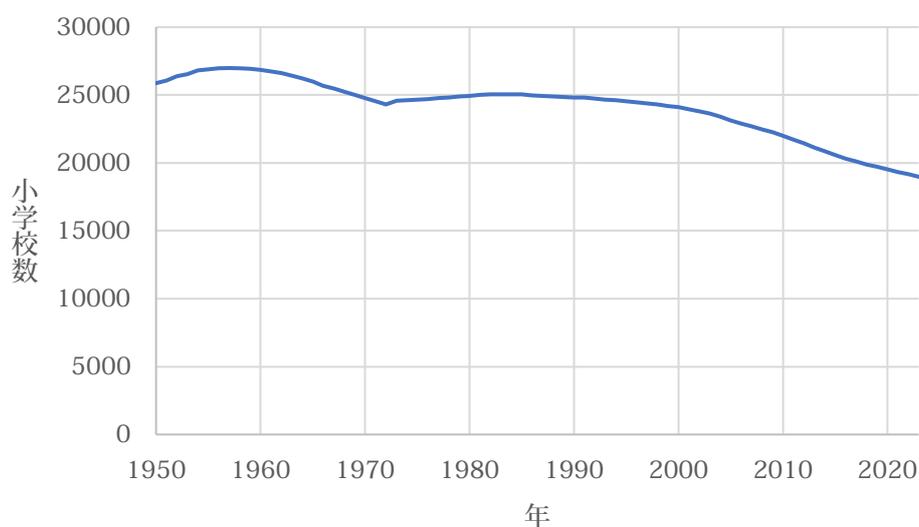


図 2-3 小学校数の推移

出典：文部科学省（2023b）「学校基本調査」をもとに筆者作成

小学校の数が減少すれば、基本的にはそれだけ廃校施設が生み出されることになる。図 2-4 は、小学校だけでなく中学校、高等学校も含めて、2002 年から 2020 年にかけて発生した廃校の数の推移を示している。驚くべきことに、2002 年度から 2020 年度にかけて廃校となった学校の数 は 8580 校、直近の 3 年間では 999 校にも上る（文部科学省，2022）。その中でも最も多いのが小学校である。小学校の通学区域は学区、あるいは校区と呼ばれ⁷、とりわけ京都ではその校区を単位に地域社会が形成されてきた（萩原，2017）。それゆえ小学校の閉校は、そこでの地域交流の拠点を失うことになり、社会関係資本（人間関係のつながり）の低下を通じて地域環境を悪化させることが危惧される（萩原，2017；社会教育実践研究センター，2017）。

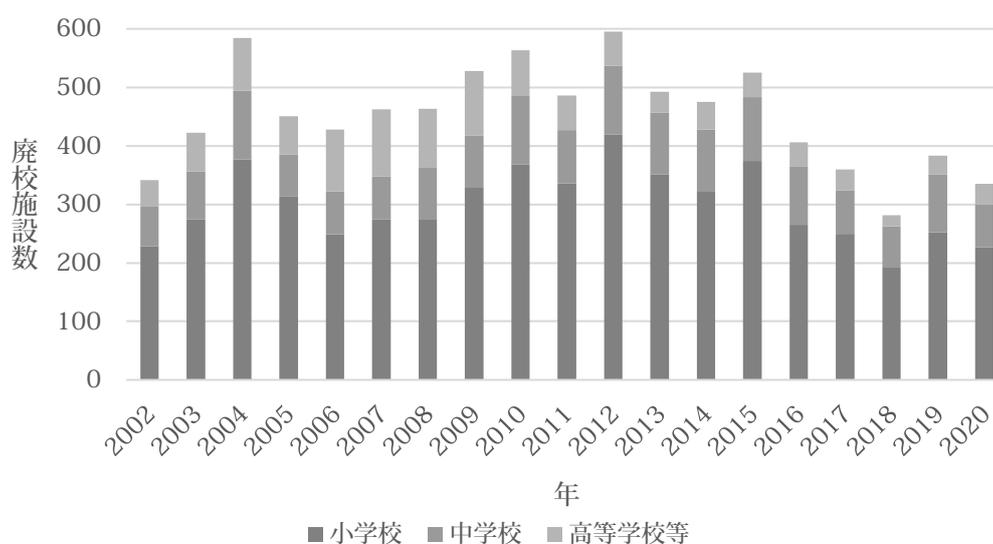


図 2-4 廃校施設数の推移

出典：文部科学省（2022）「令和 3 年度 公立小中学校等における廃校施設及び
 余裕教室の活用状況について」をもとに筆者作成

2.2 廃校施設の活用

小学校の閉校、廃校による地域社会の解体が懸念される中、近年その廃校施設の有効活用によって地域再生、観光振興を図る動きが活発化している。文部科学省は 2010 年 9 月に「～未来につなごう～みんなの廃校プロジェクト」を立ち上げ、全国各地の廃校活用事例を集めた事例集を作成すると共に、廃校活用の推進に向けて、活用用途を募集する廃校施設情

⁷ 小学校の通学区域はしばしば「学区」と呼ばれるが、京都市の中心部では「校区」と呼ぶことが多い（京都市教育委員会京都市学校歴史博物館編，2016）。

報を公表することで、事業者と地方公共団体との間のマッチングを行っている（文部科学省，2023a）。文部科学省（2022）によれば、上述の通り 2002 年度から 2020 年度にかけて廃校となった学校の数 は 8580 校であったが、施設が現存している廃校の数は 7398 校であり、そのうち活用されているものは 5481 校で、全体の 74.1% に上る。

廃校の活用用途の内訳は表 2-1 のように整理される。地方公共団体の視点から見れば、廃校の活用によって、維持管理費や公共施設の施設整備コストの縮減、地域コミュニティの維持・活性化や産業振興などの効果が期待され（文部科学省，2023a）、それを反映して公共施設としての活用事例が多くみられる。一方で「企業等の施設・創業支援施設」が 18.6% を占めており、民間の力を活用する動きもみられる。文部科学省（2023a）は、企業にとっても廃校活用は「①まとまったスペースの活用が可能、教室毎に間仕切られた使い勝手のいい空間、静かな環境といった学校の「立地・建物特性に係るメリット」、②既存施設の活用による早期事業着手やコストダウンといった「既存施設活用に係るメリット」、③話題性やメディアからの注目、地域に根ざした活動が可能といった「元学校ならではのメリット」など様々なメリットがあることを主張している。

表 2-1 廃校の活用用途（複数回答）

	校数	%
学校（大学を除く）	3948	72.0%
社会体育施設	1756	32.0%
社会教育施設・文化施設	1330	24.3%
企業等の施設・創業支援施設	1020	18.6%
福祉施設・医療施設等	774	14.1%
体験交流施設等	520	9.5%
庁舎等	461	8.4%
備蓄倉庫	199	3.6%
大学	79	1.4%
住宅	21	0.4%
総数	5481	100.0%

出典：文部科学省（2022）「令和 3 年度 公立小中学校等における廃校施設及び余裕教室の活用状況について」をもとに筆者作成

こうした廃校の活用方法の一つとして、近年カフェとしての活用が注目を集めている。朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞のデータベースから「廃校カフェ」のキーワー

ドで過去 10 年間の記事を検索したところ、8 件の記事が適合し、そのいずれもが地域活性化の観点からある特定の廃校カフェを紹介するものであった⁸。廃校をカフェとして活用することで、地域住民の交流の場が生まれるだけでなく、ノスタルジアを求める観光客をその地域に呼び込むことができる。地元の食材をアピールする場としても使えることから、観光だけでなく、地元産業の振興という面でも効果が期待される取り組みだといえよう。

2.3 廃校カフェの実態

本研究では、廃校の中でもその数が少なく、歴史建築物としても価値が高いものと思われる木造校舎に焦点を合わせ、その旧木造校舎を活用したカフェを分析の対象とする。ここでは、当団体がヒアリングを行った京都府、奈良県、三重県で営業する 4 つの木造の廃校カフェを紹介し、それらの特徴と経営上の課題を整理する。各店舗の特性は表 2-2 のように要約される。

表 2-2 ヒアリングを行った木造廃校カフェ

	cafe ねこばん	Pandozo Cafe	cafe カエデ	桐林館喫茶室 筆談カフェ
場所	京都府南山城村	京都府京丹波町	奈良県宇陀市	三重県いなべ市
旧校舎	旧田山小学校	旧質美小学校	旧宇太小学校	旧阿下喜小学校
建築年	1874 年	1960 年	1935 年	1937 年
建物	平屋建て 1 棟	平屋建て 2 棟 二階建て 1 棟	二階建て 1 棟 ※店舗は別棟	平屋建て 1 棟
閉校年	2003 年	2011 年	2006 年	1981 年
創業年	2009 年	2014 年	2013 年	2020 年
メニュー の特徴	ベーグル中心 添加物不使用 地元産の食材使用	イタリアン 地元産の食材使用 一部アルミ容器使用	洋食ランチ 給食ランチ(日のみ) 地元産の食材使用	コッペパン中心 地元産の食材使用 アルミトレイ使用

出典：筆者作成

(1) cafe ねこばん

店舗は京都府南部、奈良県との県境にある南山城村にあり、自然豊かな山あいの集落の中に位置する。木造平屋建ての建物は 1874 年（明治 7 年）に建てられた旧田山小学校で、今回ヒアリングした廃校の中では最も古い歴史を持つ。その建物は廊下が中庭を囲む回廊式になっており、カフェだけでなくギャラリーや郷土資料館も入っている。

⁸ 朝日新聞（2019；2016）、日本経済新聞（2023）、毎日新聞（2015）、読売新聞（2022；2019；2016；2015）を参照

旧田山小学校は 2003 年に閉校し、cafe ねこぱんはその一室を使って 2009 年に開業した。木工職人であるオーナーのご主人が同校舎でギャラリーを開かれるのに合わせて、来訪者が一息つける場所を提供しようとの店舗の営業が始まった。「校舎内に残されているものをできる限り活用すること」をコンセプトに、そこにモダンなデザインの木製食器を取り入れることで魅力あるカフェ空間を創り出している。メニューは自家製のベーグルが中心で、添加物を使わず、店内で焼き上げている。地元産の食材を積極的に使用しており、南山城村産の茶葉から作られる和紅茶を広める活動「南山城紅茶プロジェクト」とも連携している。

最大の課題は収益性が低く、ボランティアのような活動になってしまっていることである。山奥の立地ゆえ人通りが少なく、客足が伸びない状況が続いている。また奈良から通うオーナーにとっては体力的な負担も課題となり、将来的には後継者問題が生じる可能性もある。

(2) Pandozo Cafe

店舗は京都府京丹波町にあり、周囲は里山の風景が広がっている。京都縦貫道、京丹波みずほインターチェンジから約 10 分と車でのアクセスは良い。店舗が入る旧質美小学校は 1960 年に建築された木造校舎で、今回ヒアリングした校舎の中では比較的新しく、ガラスを込み込んだデザインやペールトーンの配色が昭和レトロの趣きを醸し出している。絵本屋、古道具屋、おかき屋など多様な店舗が営業していることも特徴的である。

旧質美小学校は 2011 年に閉校した後、質美地域の活性化を目的にリノベーションされ、その翌年 2012 年から複合施設として「質美笑楽講」がオープンした。Pandozo Cafe は 2014 年 4 月からその中で営業を始めている。もともとパン職人だったオーナーが、誰しものが経験する小学校という場所に地域や世代を超えた需要があることを見抜き、「意外性」をテーマに廃校の中にモダンなイタリアンのカフェを展開した。地元の食材をふんだんに使って、ピッツアと生パスタの多彩なメニューが提供されており、地元の人々だけでなく、大阪や神戸など都市に住む人々も多く訪れている。

廃校ゆえの家賃の安さ、グラウンドが駐車場として使える利便性など、経営上の利点もある一方で、細かな技術が価格に反映されにくいと言ったカフェ固有の課題に直面している。遠隔地にあるため、台風や大雪のニュースが大きく報道されてしまうと客足が激減する問題も抱えている。それでも 2022 年には、コロナ禍であったにも関わらず 1 万人以上の人々が訪れており、その集客力は調査した廃校カフェの中で群を抜いている。

(3) Cafe カエデ

店舗は奈良県宇陀市で地元の NPO 法人が運営する「奈良カエデの郷 ひらら」内にある。その施設には、1935 年に地元の木材を使って建てられた旧宇太小学校の二階建て校舎が残されており、植えられた世界のカエデ約 1200 種、約 3000 本がその黒い外壁を彩る。Cafe カエデはそのシンボリックな二階建て校舎とはまた別の棟にあり、その建物はゲストハウスやテレワーク用のオフィスとしても使われている。

旧宇太小学校は 2006 年に閉校し、校舎はカエデ公園の設立と共に取り壊される計画であったが、地元からの強い要望を受けて NPO 法人がその校舎を買い取り、「奈良カエデの郷 ひらら」が誕生した。Cafe カエデはその施設を拠点とした町おこしを目的に 2013 年にオープンした。ハンバーグ、ロコモコなど、地元の食材にこだわって作られる洋食ランチメニューが中心であるが、毎週日曜日には 30 食限定で給食ランチを提供している。給食ランチには揚げパンが含まれ、かつて実際の給食で使われていたアルマイト製の食器が使われている。

最大の課題は cafe ねこぱん同様に低い収益性である。現在カフェの経営は赤字であり、その赤字分をゲストハウスの収入で賄っている。厨房機器の購入など初期投資が大きかったことも経営を圧迫する一つの要因になっている。

(4) 桐林館喫茶室 筆談カフェ

店舗は三重県いなべ市にある旧阿下喜小学校の一室である。1937 年に建設されたこの建物には、大正文化の影響を色濃く残すモダンと和が融合したデザインが施されている。この校舎は 1981 年の小学校移転に伴って取り壊される予定であったが、地域の要望を受けて規模を縮小して敷地内に移築され、現在は登録有形文化財の指定のもと保護されている。

桐林館喫茶室 筆談カフェは、旧阿下喜小学校の職員室を使って 2020 年に開業した。コミュニティナースであるオーナーの「学校=学ぶ場所」という考えの下、音声を発することなく筆談などでコミュニケーションをとる「筆談カフェ」には、耳が聞こえない人の世界を知ってほしいというオーナーの思いが込められている。多彩なコッペパンのメニューは、地元の食材を使い、地元の店舗と協力しながら作られており、それをアルミのトレイに載せて提供している。BGM を一切使用しないため、自然音のもと五感を研ぎ澄ませながら小学校の思い出にふけることができる。

cafe ねこぱん、Cafe カエデ同様に問題は収益化が難しいところにある。福祉に力点を置く桐林館喫茶室 筆談カフェでは、補助金がなければ経営が成り立たず、いかに行政との連携をとるかが重要な課題となっている。

Pandozo cafe を除いて、いずれも集客力や収益性に大きな課題を抱えている実態がうかがえる。食材をはじめ、細部にまでこだわった食空間作りに取り組みられていることも、費用の増加を引き起こす要因になっているものと思われる。本研究は、廃校のカフェ活用において人々により高く評価される店舗デザイン提示することで、廃校カフェの集客力や収益性の向上に貢献する。

3. ノスタルジアマーケティングからみる廃校カフェ

3.1 ノスタルジアとは？

ノスタルジア／ノスタルジー (Nostalgia) は心理学やマーケティング、あるいは行動科学の分野で研究されており、それらの研究領域ではノスタルジアの喚起が人間の行動選択を規定すると広く認識されている⁹。堀内 (2007) によれば、消費者行動論の分野ではノスタルジアは次のように定義される (Holbrook and Schindler, 1991)。

人が若かったときに (成人期初期、青年期、幼少期、さらには生まれる前までも) 今より一般的だった (流行していた、ファッショナブルだった、あるいは広く流布していた) もの (人、場所、物) に対する選好 (一般的な好意、肯定的態度、あるいは好意的感情)

さらに Stern (1992a ; 1992b) は、マーケティング・コミュニケーションの観点からノスタルジアを次の2つに分類する。一つは個人的ノスタルジア (Personal Nostalgia)、もう一つは歴史的ノスタルジア (Historical Nostalgia) である。個人的ノスタルジアとは自分の過去 (一般に 20、30 年前) について、心地よく思い出される部分を取り出したもののことであり、一方で歴史的ノスタルジアは自分が生まれる以前、古き良き時代の歴史的物語や歴史上の人物への感情移入によって生じるものを指す (堀内, 2007)。Havlena and Holak (1991) もまた、ノスタルジアを喚起する過去を、最近の過去と消費者の経験していない遠い過去に分けている (堀内, 2007)。ノスタルジアは日本語では「郷愁」「懐古」などと訳され、自身の過去に対する懐かしさを表す言葉として一般に理解されているが、消費者行動論の分野では、自分自身の過去だけでなく、自分が経験していない過去に対する旧懐もノスタルジアの一つに含めている (Havlena and Holak, 1991)。前者は過去に対する「郷愁」であり、

⁹ 2021 年に発行された『心理学評論』の第 64 巻第 1 号では「なつかしさの認知・神経基盤と機能」という特集が組まれている。

後者は過去への「憧憬」だと理解されよう。

本研究において分析の対象となる「木造校舎」については、そのような小学校に通学していた人々は個人的ノスタルジアを、通学経験がない人々は歴史的ノスタルジアを感じる事が予想される。第6章からの分析では、アンケート調査で得られたサンプルを、個人的ノスタルジアを感じる人と歴史的ノスタルジアを感じる人とに分割し、それらの間で木造の廃校カフェに対する考えや選好にどのような違いがあるかを検討する。

3.2 ノスタルジアに関する消費者行動研究

ノスタルジアマーケティングの分野では、多くの研究がノスタルジアを喚起する広告戦略や製品・サービスデザインをとりいれることでそのブランドや製品の価値を高めることができることを主張する。例えば Muehling and Sprott (2004) は、ノスタルジアをテーマにした広告を見た消費者は、そうでない広告を見た人に比べて、その広告や広告ブランドをより好意的に評価することを示した。また Lasaleta et al. (2014) は、過去を思い起こすよう指示された消費者は、将来を考えるよう指示された人よりも、商品に対してより多く支払おうとする傾向を明らかにしている。これらの研究はノスタルジアを喚起する店舗デザインを取り入れることで、その廃校カフェの価値が高まることを含意する。

ノスタルジアは人間の五感を通して喚起される¹⁰。嗅覚について言えば、良く知られたものに「プルースト効果」がある。これは特定のにおいがそれに結びつく記憶や感情を呼び起こす現象のことである。マルセル・プルーストの小説『失われた時を求めて』の中で、主人公がマドレーヌを紅茶に浸した際、その香りで幼少時代を思い出す場面があり、その描写が元となっている(富田, 2018)。また、小川他(2021)は、人々は昭和のアイスクリーム販売機の写真に対して弱いながらも歴史的ノスタルジアを感じることを示しており、これは視覚によって呼び覚まされたノスタルジアだといえる。聴覚については、Janata (2009) が音楽刺激は自伝的記憶喚起の効果が高いことを主張する。この考えに基づき、川口他(2011)は音楽を用いて懐かしさの感覚と自伝的記憶の時間的な関係を分析している。小林・大竹(2018)もまた、音楽がノスタルジアを喚起することを確認している。

3.3 廃校カフェにおけるノスタルジックデザインの提案

本研究では、廃校カフェにおいてノスタルジアを喚起する店舗デザインを提案し、それらに対する人々の選好を分析する。このノスタルジックデザインを考案するにあたり、当団体

¹⁰ 黒川(2021)は、五感で味わい、体験したことは、老年期にたとえ認知機能に障害が起きても残ることが多いと主張する。

は40代以上の方を対象に、メンバーの親族と質美小学校の関係者（質美地区の居住者を含む）に対して、場所・場面（視覚）、食事（味覚）、音・音楽（聴覚）のそれぞれの観点から小学校のどこにノスタルジアを感じるかをヒアリングした（参考資料A）。結果としては、視覚については運動会や運動場をあげる人が多くみられたが、教室、音楽室、図書室、体育館、校門、靴箱など様々な場所があげられた。味覚については当然給食や弁当が対象となるが、給食で言えば揚げパンやコッペパンを上げる人が多かった。聴覚についてはチャイムの音をあげる人が多く、楽器としてはリコーダー、ハーモニカ、オルガン、ピアノなどがあげられた。

これらの結果を受けて、当活動では若い世代にもアピーリングな廃校カフェのノスタルジックデザインとして、視覚、味覚、聴覚の3つの観点から各デザインを表3-1のように提案する。次章で紹介するように、今回当団体はこれらのデザインを施した廃校カフェを実験的に営業し、それを体験してもらった人々を対象にアンケート調査を実施することで、これらのデザインに対する人々の選好を明らかにする。

表3-1 当団体が提案する廃校カフェのノスタルジックデザイン

感覚機能	ノスタルジックデザイン
視覚	運動会、授業、文化祭など小学校の風景を映写する
味覚	コッペパンを中心に学校給食をベースとしたメニューを提供する
聴覚	リコーダー、オルガンなどの楽器をフィーチャーしたBGMを流す

出典：筆者作成

4. ノスタルジックデザインを施した実験的カフェの開催

4.1 「ノスタルジックカフェ」の概要

今回当団体が「ノスタルジックカフェ」と名付けて実験的に営業した廃校カフェの概要は表4-1のように整理される。開催日は2023年11月18日（土）、25（土）と、行楽に適した気候の良い11月の週末に設定したものの、表4-2に示されるように11月にしてはかなり肌寒く、一時的に雨や雪が降る天気となった。

表 4-1 当団体が開催した廃校カフェイベントの概要

イベント名	ノスタルジックカフェ
日時	2023年11月18日(土)・25日(土) 11:30~15:00
会場	旧質美小学校内「喫茶ランチルーム」 (京都府船井郡京丹波町質美上野 43)
主な内容	1. ノスタルジックデザインを施したカフェの営業 (a) 様々な小学校の風景をプロジェクターで壁に映写 (b) コッペパンをメインに給食をベースとしたメニューを提供 (c) リコーダー、オルガンなどの楽器を使ったBGMを演奏 2. アンケート調査の実施
協力	質美笑楽講管理運営委員会、喫茶ランチルーム

出典：筆者作成

表 4-2 イベント当日の京都府舞鶴市の天候

	11月18日(土)	11月25日(土)	11月平均
平均気温	6.6℃	7.4℃	12.1℃
最高気温	9.9℃	11.0℃	17.4℃
最低気温	4.1℃	5.0℃	7.9℃
平均風速	2.9m/s	2.7m/s	2.3m/s
降水量	2.5mm	5.5mm	-

出典：気象庁「過去の気象データ検索」

(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) より筆者作成

会場は、京都府京丹波町にある旧質美小学校内の「喫茶ランチルーム」である。建物には第2章で紹介した Pandozo Cafe も入っており、現在その旧校舎は「質美笑楽講」として地域交流を目的に質美笑楽講管理運営委員会により運営されている。喫茶ランチルームはかつて質美小学校の全児童が集まって給食をとっていた食堂をそのままの形で利用したカフェであり、地元の女性グループにより「質美笑楽講」のオープン当初から営業を続けられている。毎週土曜日、月替わりでその土地の食材をふんだんに使った手作りのランチメニューを提供している。

今回当団体は、喫茶ランチルームの皆様のご協力のもと、前章で述べたようにその店舗空間に視覚、味覚、聴覚のそれぞれの観点から当団体が考案したノスタルジックデザインを施し、2日間限定でカフェを営業した。視覚については、旧質美小学校閉校時に発行された記念アルバムをもとに、様々な学校風景の写真をプロジェクターで店内の壁に映写した。味覚

については、地元の食材を活用しながらコッペパンをメインに学校給食をイメージしたセットメニューを提供した。メニューの詳細は次節で紹介する。そして聴覚については、リコーダー、オルガン、ピアノをフィーチャーしたフリー素材のBGMを流し、同時に30分間隔でチャイムを鳴らした。さらに店内に「ノスタルジックスペース」を設け、あやとりや折り紙、こま、クレヨン、画用紙、日記帳などを用意して、子供の頃の遊びを体験できるようにした。また、質美加工グループが地元産の柚子を使って製造した柚子ジャム、柚子ピールなどの柚子加工食品の販売も行った。

会場の構成は図4-1の通りである。仕切りはないものの入り口から入って概ね手前側と奥側とで2つのスペースに分けられており、手前側がノスタルジックスペース（図4-2）、奥側が飲食スペース（図4-3）になっている。ノスタルジックスペースには当時使われていた木製の学習机と椅子、教卓を置き、教室のような雰囲気懐かしい遊びを体験できるようにした。またそのすぐ横にプロジェクターを設置し、店内の壁に学校風景を映写することで、ノスタルジックスペースからも飲食スペースからもそのスライドショーを見ることができるようにした。飲食スペースには、当時からこの部屋で使われていた正方形のテーブルを内側に配置し、窓側には中庭を臨む形で木製の学習机を置いた。また、入ってすぐのところに過年度のゼミ活動の成果物を陳列し、入退店する人々にアピールした。

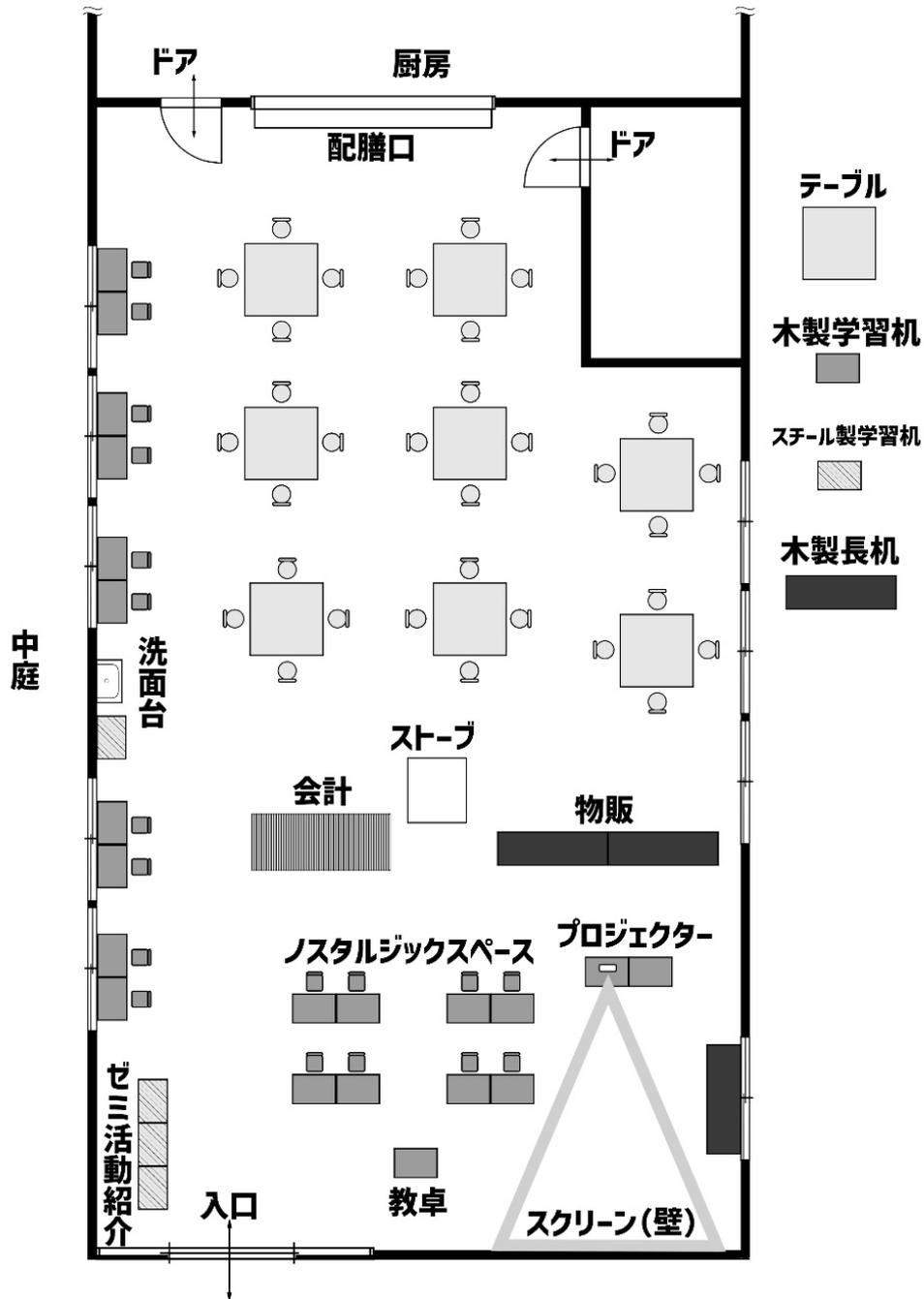


図 4-1 会場の見取り図

出典：筆者作成



図 4-2 ノスタルジックスペース

出典：筆者撮影



図 4-3 飲食スペース

出典：筆者撮影

4.2 給食メニューとその販売結果

今回の実験的なカフェでは、コッペパンを中心とする 2 つの給食セットメニュー「給食セット」と「喫茶セット」を提供した。コッペパンについてはきな粉をかけた揚げパン「きな粉揚げパン」と抹茶ミルクパウダーをかけた揚げパン「抹茶揚げパン」（図 4-4 のパネル a）、そしてホイップクリームを挟んだコッペパンに黒豆の煮豆をのせてきな粉をかけた「黒豆きな粉コッペ」と抹茶ミルクパウダーをかけた「黒豆抹茶コッペ」（図 4-4 のパネル b）の 4 種類を用意した¹¹。これらのコッペパンメニュー一つとビンに入った牛乳（ホットコーヒー、ホット紅茶に変更可能）とコーヒー風味のミルクメーカー¹²を付けたものを「喫茶セッ

¹¹ コッペパンメニューのレシピは参考資料 B を参照のこと

¹² ミルクメーカーは大島食品工業株式会社の製品である。

ト」として 500 円で販売し、さらにその「喫茶セット」にクリームシチューを付けたものを「給食セット」として 800 円で販売した¹³。図 4-5 はその一例を示している。



(a) 揚げパン

(b) コッペパン

図 4-4 コッペパンメニュー

出典：筆者撮影



図 4-5 給食セットの一例

出典：筆者撮影

食材にはできる限り地元産（京都産）のものを使用することにこだわった。コッペパンにのせる黒豆は地元京丹波産のものであり、きな粉も京丹波産の黒豆から作られたものを使用した。ビンに入った牛乳については、京都府北部の京丹後市で作られている「ヒラヤミルク」¹⁴を提供した。抹茶ミルクパウダーも宇治抹茶から作られたものである。また、クリー

¹³ 初日は喫茶セットにはコッペパンを、給食セットには揚げパンを割り当てていたが、自由に選びたいとの希望が寄せられたため、二日目は各セットについてどのコッペパンメニューも選べるようにした。

¹⁴ ヒラヤミルクは平林乳業株式会社の商品である。

ムシチューは喫茶ランチルームの皆様のご協力のもと、質美で収穫された根菜類をふんだんに使って作られている。

結果としては、初日の11月18日は給食セットを25食、喫茶セットを15食、翌週の11月25日は給食セットを26食、喫茶セットを29食売り上げた。少なくとも延べ95の方が当団体が主催するノスタルジックカフェを楽しんだことになる。

4.3 木造廃校カフェ紹介パンフレットの配布

今回当団体は、当団体が主催するノスタルジックデザインを施したカフェだけでなく、現代的なデザインを取り入れた廃校カフェについても知ってもらうため、京都府、奈良県、三重県にある木造校舎を活用した廃校カフェを紹介するパンフレット（フルカラー、A4 巻き三つ折り）を3000部作成し、それを広く配布した。掲載した店舗は、2.3で紹介した cafe ねこぱん（京都府南山城村）、Pandozo Cafe（京都府京丹波町）、Cafe カエデ（奈良県宇陀市）、桐林館喫茶室 筆談カフェ（三重県いなべ市）の4店舗である。なお、パンフレットに付けたタイトル「郷愁誘う木造校舎に憧憬する」は、通学していた人が郷愁を覚える（個人的ノスタルジアを感じる）木造校舎に対して、木造校舎に通学経験がない人も憧れを抱く（歴史的ノスタルジアを感じる）であろうという本研究の仮説を表している。

パンフレットは旧質美小学校やパンフレットに記載されている各店舗、および旧質美小学校に近い道の駅兼パーキングエリア「京丹波味夢の里」、道の駅「丹波マーケス」などで配布した。また、京都トヨタ自動車株式会社の本社店、中央店、桂川洛西店、御池店、乙訓店、城陽店、宇治店、木津店、亀岡店、中丹店、フォルクスワーゲン京都吉祥院でもパンフレットを配架いただいた。

5. 分析手法と調査設計

5.1 選択型実験の設計

本研究では、廃校カフェの店舗デザインに対する人々の選好を定量的に分析するために、コンジョイント分析の一種である選択型実験（Choice Experiments）を用いる¹⁵。選択型実験では、回答者にいくつかの属性レベルで構成される財やサービス（プロファイル）を複数提示し、その中から最も望ましいものを選択してもらう。その回答データを分析することで、各属性と効用との関係を説明する効用関数を推定し、そこから各属性に対する支払意思額

¹⁵ 本章の作成には寺脇拓ゼミ（2022）第5章を参考にした。

を計測する。コンジョイント分析は、もともとはマーケティングリサーチや心理学の分野で用いられてきたものであり、1990年代に入ってから経済学の分野で応用され、手法としての飛躍的な発展を遂げた（栗山・馬奈木, 2016；寺脇拓ゼミ, 2022）。その中でも選択型実験は、現実の購買行動に類似することから回答者が答えやすく、高い回収率が期待されるため、近年最もよく使われている手法である（栗山・庄子, 2005；寺脇拓ゼミ, 2022）。

本調査においては、回答者に日帰り木造の廃校カフェを訪れる状況を想像してもらい、異なる店舗デザインを持つ2つの廃校カフェから行きたい方のカフェを選択してもらった。廃校カフェの属性とレベルは表 5-1 のように整理される。当イベントの店舗デザインに合わせて、ここではそれらを（1）学校風景の映写（映写あり/映写なし）、（2）ランチメニュー（学校給食をベースとするメニュー/現代的なカフェメニュー）、（3）BGM（オルガンやリコーダーを使った音楽/現代的なカフェ音楽）とし、それに（4）一人当たりの往復の旅行費用（1000円/2000円/3000円/4000円）を加えた。

表 5-1 選択型実験の質問で設定した廃校カフェの属性とレベル

属性	レベル			
	学校風景の映写	映写あり		映写なし
ランチメニュー	学校給食をベースとするメニュー		現代的なカフェメニュー	
BGM	オルガンやリコーダーを使った音楽		現代的なカフェ音楽	
往復旅行費用(1人当たり)	1000 円	2000 円	3000 円	4000 円

出典：筆者作成

これらの属性のレベルを組み合わせることでプロファイルが作られる。選択型実験では、しばしば異なるプロファイルを2つ並べ、「どちらも買わない」を含めて、3つの選択肢の中から1つを選んでもらう質問を回答者に複数回繰り返す。本調査においてもこの形を採用し、ベイジアンD最適設計（Kessels et al., 2011）を用いて、一人当たり4回質問を行う調査票を4バージョン作成した。表 5-2 はその一覧であり、図 5-1 は質問の一例である。なおこれら4種類の調査票は回答者にランダムに配布された。

表 5-2 プロファイル一覧

バージョン	質問	学校風景の映写	ランチメニュー	BGM	旅費
1	1	映写なし	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	4000 円
1	1	映写あり	学校給食をベースとするメニュー	現代的なカフェ音楽	3000 円
1	2	映写なし	現代的なカフェメニュー	現代的なカフェ音楽	1000 円
1	2	映写なし	現代的なカフェメニュー	現代的なカフェ音楽	3000 円
1	3	映写あり	現代的なカフェメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	1000 円
1	3	映写なし	学校給食をベースとするメニュー	現代的なカフェ音楽	2000 円
1	4	映写なし	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	3000 円
1	4	映写あり	現代的なカフェメニュー	現代的なカフェ音楽	1000 円
2	1	映写なし	学校給食をベースとするメニュー	現代的なカフェ音楽	4000 円
2	1	映写なし	現代的なカフェメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	3000 円
2	2	映写あり	現代的なカフェメニュー	現代的なカフェ音楽	1000 円
2	2	映写あり	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	4000 円
2	3	映写なし	学校給食をベースとするメニュー	現代的なカフェ音楽	1000 円
2	3	映写あり	現代的なカフェメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	2000 円
2	4	映写あり	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	3000 円
2	4	映写あり	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	2000 円
3	1	映写あり	学校給食をベースとするメニュー	現代的なカフェ音楽	2000 円
3	1	映写なし	現代的なカフェメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	1000 円
3	2	映写あり	学校給食をベースとするメニュー	現代的なカフェ音楽	3000 円
3	2	映写あり	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	2000 円
3	3	映写なし	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	2000 円
3	3	映写あり	現代的なカフェメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	4000 円
3	4	映写なし	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	4000 円
3	4	映写あり	現代的なカフェメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	2000 円
4	1	映写なし	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	1000 円
4	1	映写あり	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	4000 円
4	2	映写あり	学校給食をベースとするメニュー	現代的なカフェ音楽	1000 円
4	2	映写なし	現代的なカフェメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	2000 円
4	3	映写あり	現代的なカフェメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	3000 円
4	3	映写あり	現代的なカフェメニュー	現代的なカフェ音楽	4000 円
4	4	映写なし	現代的なカフェメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	4000 円
4	4	映写なし	学校給食をベースとするメニュー	オルガンやリコーダーを使った音楽	2000 円

出典：筆者作成

14. いま、あなたが日帰りで木造の廃校カフェを訪れる状況を想像してください。これから、(1)学校風景の映写（映写なし/映写あり）、(2)ランチメニュー（現代的なカフェメニュー/学校給食をベースとするメニュー）、(3)BGM（現代的なカフェ音楽/オルガンやリコーダーを使った音楽）、(4)一人当たりの往復の旅行費用（1000 円/2000 円/3000 円/4000 円）が異なる廃校カフェが 2 つずつ登場します。行きたい方の番号に○をつけてください。どちらも行きたくなければ「3」に○をつけてください。なお、ランチメニューの価格は 2 つのカフェで同じものとします。

	木造廃校カフェ A	木造廃校カフェ B	どちらも行かない
学校風景の映写	映写なし	映写あり	
ランチメニュー	学校給食をベースとするメニュー	学校給食をベースとするメニュー	
BGM	オルガンやリコーダーを使った音楽	現代的なカフェ音楽	
往復の旅行費用 (一人当たり)	4000 円	3000 円	
行きたい方に○→	1	2	3

図 5-1 選択型実験の質問の一例

出典：筆者作成

5.2 推定モデル

コンジョイント分析では、人々は財そのものからではなく、その財の属性から効用を得るものと考え、財が持つ個々の属性と人々の効用との間の関係を表す効用関数を推定する。ここでは、上記の属性からなるカフェを対象に、その効用関数を次のように定式化する。

$$U = V + \epsilon = (\beta_V VISION + \beta_T TASTE + \beta_H HEARING + \beta_C COST) * (1 - NEITHER) + \beta_N NEITHER + \epsilon \quad (5.1)$$

U は回答者がある木造廃校カフェを訪れるとき（あるいは訪れないとき）に得られる効用を表しており、そのうち観察可能な部分を V 、観察できない部分を ϵ で表す。各変数の定義は表 5-3 に示す通りである。

表 5-3 効用関数に含まれる変数の定義

変数	定義
$VISION$	学校風景の映写あり = 1、映写なし = 0
$TASTE$	学校給食をベースとするメニュー = 1、現代的なカフェメニュー = 0
$HEARING$	リコーダーやオルガンを使った音楽 = 1、現代的なカフェ音楽 = 0
$COST$	一人当たり往復旅行費用（円）
$NEITHER$	どちらも行かない = 1、その他 = 0

出典：筆者作成

ここで、(5.1) 式の観察可能な部分 V に注目する。図 5-1 のような質問において、回答者が木造廃校カフェ A か B のいずれかを選択するとき、 $NEITHER = 0$ より、その選択から得られる効用の観察可能な部分 V は次式で表される。

$$V = \beta_V VISION + \beta_T TASTE + \beta_H HEARING + \beta_C COST \quad (5.2)$$

一方で「どちらも行かない」を選択するとき、そのときの効用は、 $NEITHER = 1$ より、(5.1) 式から $V = \beta_N$ となる。したがって、廃校カフェ A、B の各プロフィールに対応する変数の値を (5.2) 式に代入することで、それらのカフェを選択することから得られる効用が表され、それよりも β_N の方が大きければ、その人は「どちらも行かない」を選択すると解釈される。

この式を推定するために、条件付きロジットモデル (Conditional Logit Model) を用いる。廃校カフェ A と B、そして「どちらも買わない」をそれぞれ A、B、N の記号で表し、それらに対応する V を V_A 、 V_B 、 V_N で表す。観察不可能な ϵ を、各選択肢と回答者それぞれについて互いに独立なガンベル分布 (第一種極値分布) に従う確率変数と仮定するとき、ある選択肢 k ($k = A, B, N$) を選択する確率 P_k は、次のように与えられる。

$$P_k = \frac{\exp(V_k)}{\sum_{j \in J} \exp(V_j)} = \frac{\exp(V_k)}{\exp(V_A) + \exp(V_B) + \exp(V_N)} \quad (5.3)$$

J は選択肢の集合 $\{A, B, N\}$ を、 j はその各要素を表している。この確率を用いて、回答者が各質問で実際に選択した選択肢を選ぶ確率を全て掛け合わせることで尤度関数が作られ、最尤法により各変数の係数パラメータが推定される (寺脇拓ゼミ, 2022)。

5.3 支払意思額の計算

(5.1) 式の効用関数が推定されれば、その観察可能な部分 V を用いて、木造廃校カフェの各店舗デザインに対する支払意思額を計算することができる。ここでは一例として、現代的なカフェメニューが提供される木造廃校カフェを基準として、学校給食をベースとするメニューが提供される木造廃校カフェに対して追加的に支払ってもよいと思う金額を導く。より正確に言えば、この金額は、現代的なカフェメニューが提供される廃校カフェと学校給食をベースとするメニューが提供される廃校カフェがあるときに、前者ではなく後者のカフェに行くために人々が追加的に支払ってもよいと思う旅行費用を意味する。それは人々が木造廃校カフェで学校給食をベースとするメニューを楽しむことに対して見出す価値を金銭的に表すものであり、廃校カフェにおけるそのような取り組みが社会に与える便益の

大きさを示す。

いまある木造廃校カフェを訪れる状況を考えて ($NEITHER = 0$)、学校給食をベースとするメニューが提供される廃校カフェ ($TASTE = 1$) から得られる効用 V_1 と、現代的なカフェメニューが提供される廃校カフェ ($TASTE = 0$) から得られる効用 V_0 を考える。他の店舗デザインと旅行費用がそれぞれ $VISION^*$ 、 $HEARING^*$ 、 $COST^*$ で一定であるとき、 V_1 と V_0 はそれぞれ次式で表される。

$$V_1 = \beta_V VISION^* + \beta_T + \beta_H HEARING^* + \beta_C COST^* \quad (5.4)$$

$$V_0 = \beta_V VISION^* + 0 + \beta_H HEARING^* + \beta_C COST^* \quad (5.5)$$

このとき、 $\beta_T > 0$ 、すなわち学校給食をベースとするメニューの方が現代的なメニューよりも選好されるならば $V_1 > V_0$ である。学校給食をベースとするメニューが提供される木造廃校カフェに対する追加的な支払意思額は、そのカフェに行く代わりに上がってもよいと思う旅行費用 ($COST$) の上昇分を意味する。したがって、以下の (5.4) 式の V_1 が (5.5) 式の V_0 と等しくなる $\Delta COST$ がここでの支払意思額となる。

$$V_1 = \beta_V VISION^* + \beta_T + \beta_H HEARING^* + \beta_C (COST^* + \Delta COST) \quad (5.4')$$

(5.4') 式と (5.5) 式から、 $V_1 = V_0$ を解くことによって、 $\Delta COST$ は以下のように表される。

$$\Delta COST = -\frac{\beta_T}{\beta_C} \quad (5.6)$$

つまり、この定式化の下では、人々が学校給食をベースとするメニューが提供される木造廃校カフェに対して追加的に支払ってもよいと思う金額は、 $TASTE$ の係数を $COST$ の係数で割り、それに -1 をかけることで測られる。旅行費用が上昇すればおそらく効用は下がるので、 $\beta_C < 0$ であることより、この金額は正の値をとる。

他のノスタルジックデザインについても、同様の計算により各店舗デザインに対する支払意思額、すなわちそれらのノスタルジックデザインの価値を計測することができる。その計算は表 5-4 のように整理される (寺脇拓ゼミ, 2022)。

表 5-4 各ノスタルジックデザインに対する支払意思額

カフェの特性	支払意思額 (円)
学校風景の映写 (学校風景の映写がない廃校カフェを基準)	$-\beta_V/\beta_C$
学校給食をベースとするメニューの提供 (現代的なメニューが提供される廃校カフェを基準)	$-\beta_T/\beta_C$
リコーダーやオルガンを使った音楽の演奏 (現代的な音楽が演奏される廃校カフェを基準)	$-\beta_H/\beta_C$

出典：筆者作成

6. 調査概要と集計結果

6.1 調査概要とサンプルの分割

当活動では、木造廃校カフェの店舗デザインに対する人々の選好を分析するために、当団体が実験的に営業した「ノスタルジックカフェ」の利用者を対象にアンケート調査を実施した。調査票は、イベント会場となる旧質美小学校への訪問に関する質問 (問 1～問 6)、旧質美小学校に対する印象に関する質問 (問 7～問 9)、当イベントに対する評価の質問 (問 10～問 13)、選択型実験の質問 (問 14)、個人属性を問う質問から構成される (表 6-1)¹⁶。イベントではカフェの利用者に紙の調査票を配ると共に、そこに QR コードをつけてオンラインでも回答できるようにした。なお調査票では「ノスタルジア」という言葉を使わず、一般にはより馴染みがあると思われる「ノスタルジー」という言葉を使っている。

¹⁶ 調査票の最後に自由回答欄を設けた。その回答は参考資料 C にまとめられている。

表 6-1 質問内容一覧

番号	質問内容
問 1	旧質美小学校への交通手段
問 2	旧質美小学校をおとずれた目的
問 3	当イベントがなかった時の旧質美小学校への訪問
問 4	旧質美小学校への訪問回数
問 5	旧質美小学校以外の廃校への訪問
問 6	旧質美小学校以外に訪問したことがある廃校の名前
問 7	通学していた小学校時の校舎
問 8	木造校舎に対してノスタルジアを感じる程度
問 9	旧質美小学校の雰囲気に対する評価
問 10	当イベントで実食したコッペパンメニュー
問 11	コッペパンメニューに対する評価
問 12	ノスタルジックデザインに対する評価
問 13	ノスタルジックカフェに対する評価
問 14	選択型実験の質問
個人属性	性別、年代、居住地、職業、廃校の保存に対する考え

出典：筆者作成

本章では、問 14 を除く質問の回答結果を考察する。その際には、小学校時に通っていた校舎が木造であった人と木造以外であった人に分割したクロス集計を行う。表 6-2 はその小学校時に通っていた校舎のタイプの単純集計結果である。この表に示されるように、木造校舎に通っていた人は全体の 38.3% を占め、そうでない人は「わからない」も含めて 61.7% を占める結果となった。前者は旧質美小学校のような木造校舎に個人的ノスタルジアを覚え、後者は歴史的ノスタルジアを感じるものと予想される。以下では、この分類に従ってサンプルを分割し、各回答のクロス集計を行うと共に、独立性の検定結果を示しながら両者の間の回答の違いについて考察を与える。

表 6-2 小学校時に通っていた校舎のタイプ

	度数	%
木造校舎	31	38.3%
プレハブ／鉄筋コンクリート造り	47	58.0%
わからない	3	3.7%
合計	81	100.0%

出典：筆者作成

6.2 集計結果

(1) 回答者属性

まず、回答者の社会経済属性を整理する。今回収集した情報は、性別、年代、居住地、職業の4つである。

第一に、性別構成についてはばらつきがなかった。全体としては男性が42.0%、女性が55.6%と若干女性が多いものの、ほぼ半数ずつを占める結果となった(表6-3)。小学校時の校舎のタイプ別にみても大きな差は見られず、独立性の検定の結果、その検定統計量の値は0.513、p値は0.474となり、小学校時の校舎が木造の人と木造以外の人との間で回答構成に差がないという仮説は有意水準10%で棄却されなかった。

表6-3 性別

	小学校時の校舎が木造		小学校時の校舎が木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
男性	14	45.2%	20	40.0%	34	42.0%
女性	15	48.4%	30	60.0%	45	55.6%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	6.5%	0	0.0%	2	2.5%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

第二に、小学校時の校舎が木造の人は高齢層に偏っており、木造でない人は若年層に偏っている。表6-4に示されるように、全体としては、60歳代が6.2%とやや少ないものの、20歳代以上はいずれも10%~20%程度の割合を占め、全体的には幅広い年代からなるサンプルだと言える。しかしながら、小学校時の校舎が木造であった回答者は70歳以上に集中しており、その割合は54.8%に上る一方で、木造以外であった回答者については20歳代が最も多く、40.0%を占めている。2.3で述べたように、木造校舎の建築年は古く、その多くがすでに姿を消していることを考えれば、これは自然な結果だといえよう。独立性の検定結果でも、検定統計量の値は34.423、p値は0.000となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は有意水準1%で棄却された。

表 6-4 年代

	小学校時の校舎が木造		小学校時の校舎が木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
10 歳代	1	3.2%	2	4.0%	3	3.7%
20 歳代	0	0.0%	20	40.0%	20	24.7%
30 歳代	1	3.2%	8	16.0%	9	11.1%
40 歳代	5	16.1%	7	14.0%	12	14.8%
50 歳代	3	9.7%	10	20.0%	13	16.0%
60 歳代	3	9.7%	2	4.0%	5	6.2%
70 歳以上	17	54.8%	1	2.0%	18	22.2%
無回答	1	3.2%	0	0.0%	1	1.2%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

第三に、回答者の多くは京都府在住者であったが、大阪府、滋賀県などの隣接する府県からの訪問者もみられる。今回当団体は京都府京丹波町にて実験的なカフェイベントを開催し、そこでデータを収集したため、表 6-5 に示されるように全体としては京都府在住者が 53.1% と高い割合を占める結果となった。これは見方を変えれば、残りの半数は他の都府県在住者ということになり、時間と費用をかけて遠くから訪問している人も一定数いるといえる。小学校時の校舎のタイプ別にみると、木造校舎に通っていた回答者の 77.4% が京都府に在住しており、木造以外の校舎に通っていた回答者の 38.0% を大きく上回っている。これは本サンプルの中で木造校舎に通っていた回答者の約半数が京丹波町在住者であり、おそらく旧質美小学校の卒業生であったことが影響しているものと思われる。独立性の検定の結果でも、検定統計量の値は 13.631、p 値は 0.058 となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は有意水準 10% で棄却された。

表 6-5 居住地

	小学校時の校舎が木造		小学校時の校舎が木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
京都府	24	77.4%	19	38.0%	43	53.1%
滋賀県	2	6.5%	11	22.0%	13	16.0%
大阪府	0	0.0%	11	22.0%	11	13.6%
兵庫県	1	3.2%	3	6.0%	4	4.9%
愛知県	0	0.0%	2	4.0%	2	2.5%
岐阜県	2	6.5%	0	0.0%	2	2.5%
東京都	1	3.2%	1	2.0%	2	2.5%
富山県	0	0.0%	1	2.0%	1	1.2%
無回答	1	3.2%	2	4.0%	3	3.7%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

第四に、回答者の大部分は社会人であるが、木造校舎に通学していた人の中では無職の人が多い。全体としては正規の職員・従業員の割合が 42.0%と最も高く、次いで無職の人が 16.0%、学生が 14.8%を占めている（表 6-6）。この無職の人々はおそらく定年退職された高齢者層であることが予想される。それゆえ小学校の校舎が木造であった人の中では無職や専業主婦の人の割合が相対的に高くなっている。独立性の検定においても、検定統計量の値は 33.499、p 値は 0.000 となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は有意水準 1%で棄却された。

表 6-6 職業

	小学校時の校舎が木造		小学校時の校舎が木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
正規の職員・従業員 (派遣社員を含む)	7	22.6%	27	54.0%	34	42.0%
パート・アルバイト	0	0.0%	4	8.0%	4	4.9%
会社役員	1	3.2%	2	4.0%	3	3.7%
自営業	4	12.9%	4	8.0%	8	9.9%
学生	1	3.2%	11	22.0%	12	14.8%
専業主婦/主夫	5	16.1%	1	2.0%	6	7.4%
無職	12	38.7%	1	2.0%	13	16.0%
無回答	1	3.2%	0	0.0%	1	1.2%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

(2) 廃校への訪問

次に、今回のイベント会場である旧質美小学校への訪問とその目的、さらには旧質美小学校以外の廃校への訪問経験を集計し、その結果を考察する。

第一に、旧質美小学校へは自家用車・バイクで訪れる人が多い。表 6-7 に示されるように、全体でみても、小学校時の校舎のタイプ別にみても自家用車・バイクで訪問している人が 90%前後を占めている。この結果は、旧質美小学校に限らず一般に廃校はアクセスが悪い場所にあり、そこへの交通手段は自家用車やバイクに限定されてしまう現状を明確に示している。独立性の検定の結果、検定統計量の値は 2.909、p 値は 0.406 となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は有意水準 10%で棄却されなかった。

表 6-7 旧質美小学校までの交通手段

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
自家用車・バイク	28	90.3%	44	88.0%	72	88.9%
電車・バスなどの公共交通機関	0	0.0%	2	4.0%	2	2.5%
タクシー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
徒歩・自転車	3	9.7%	1	2.0%	4	4.9%
その他	0	0.0%	1	2.0%	1	1.2%
無回答	0	0.0%	2	4.0%	2	2.5%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

第二に、人々は食事やカフェを主な目的に旧質美小学校を訪れており、当カフェイベントもその集客に貢献している。表 6-8 の通り、全体では訪問目的として食事・カフェを上げる人が 64.2%と最も多くを占めた。この傾向は小学校時の校舎のタイプ別にみても変わらず、木造校舎に通っていた回答者の 61.3%、木造以外の校舎に通っていた回答者の 66.0%が今回の訪問の目的として食事・カフェを上げている。一方で当イベントを目的に訪れた人は全体の 32.1%を占めており、木造校舎に通った回答者に限定すればその割合は 38.7%に上る。上述の通り本サンプル内で木造校舎に通っていた回答者の約半数が京丹波町在住者であり、旧質美小学校でのチラシ配布など、地元での広報が実を結んだといえる。

表 6-8 旧質美小学校への訪問目的（非制限の複数回答）

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
当団体のイベントへの参加	12	38.7%	14	28.0%	26	32.1%
当団体以外のイベントへの参加	3	9.7%	1	2.0%	4	4.9%
食事・カフェ	19	61.3%	33	66.0%	52	64.2%
買い物	3	9.7%	0	0.0%	3	3.7%
廃校の風情を楽しむこと	5	16.1%	10	20.0%	15	18.5%
自身の仕事・学習	1	3.2%	3	6.0%	4	4.9%
子供の遊び・学習	0	0.0%	3	6.0%	3	3.7%
他の場所を訪れるついでに	0	0.0%	5	10.0%	5	6.2%
その他	3	9.7%	2	4.0%	5	6.2%
有効回答数	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

表 6-9 は旧質美小学校の訪問目的に当イベントへの参加をあげた人を対象に、それがなかったときの訪問の有無を尋ねた結果である。全体では 61.5%の人が「当イベントがなければ訪れなかった」と回答しており、その割合は木造以外の校舎に通学していた回答者においてより高い値を示している。この結果は、当団体が企画したノスタルジックデザインを施した廃校カフェは、木造校舎に歴史的ノスタルジアを感じる人により魅力的に映ったことを物語る。ただし、独立性の検定の結果としては、検定統計量の値は 1.254、p 値は 0.263 となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は、有意水準 10%では棄却されなかった。

表 6-9 当イベントがなかったときの旧質美小学校への訪問

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
当イベントがなくても訪れた	6	50.0%	4	28.6%	10	38.5%
当イベントがなければ訪れなかった	6	50.0%	10	71.4%	16	61.5%
合計	12	100.0%	14	100.0%	26	100.0%

出典：筆者作成

第三に、木造以外の校舎に通学していた人の大部分が初めて旧質美小学校を訪問した人である。表 6-10 に示されるように、全体では当イベント利用者の 58.0%が今回初めて旧質美小学校を訪問したと回答した。この結果は小学校時の校舎が木造以外の人への傾向を反映

しており、それらの人々の 82.0%が初めて旧質美小学校を訪問した人であった。一方で、小学校時の校舎が木造であった人のほとんどがリピーターである。これは、木造校舎に通っていた回答者の中に地元に住む旧質美小学校の卒業生が多く含まれることが影響しているものと思われる。独立性の検定結果でも、検定統計量の値は 30.684、p 値は 0.000 となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は、有意水準 1%で棄却された。

表 6-10 旧質美小学校への訪問経験

	小学校時の校舎が木造		小学校時の校舎が木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
今回初めて	6	19.4%	41	82.0%	47	58.0%
今回を含めて 2 回以上	22	71.0%	7	14.0%	29	35.8%
無回答	3	9.7%	2	4.0%	5	6.2%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

第四に、旧質美小学校訪問者の半数以上が、旧質美小学校「以外」の廃校にも訪問している。全体としては、当イベント利用者の 54.3%が他の廃校施設にも「訪れたことがある」と回答した（表 6-11）。小学校が木造校舎であった人の方がその傾向が強く、67.7%の人が旧質美小学校以外の廃校にも訪問した経験をもっている。これは木造校舎に通っていた回答者の多くが高齢層であり、単純にその機会が多かったことを反映するものともいえるが、木造校舎に個人的ノスタルジアを感じる人の方がより頻繁に廃校を訪れる傾向を表すものかもしれない。独立性の検定における検定統計量の値は 3.646、p 値は 0.056 となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は、有意水準 10%で棄却された。

表 6-11 旧質美小学校以外の廃校への訪問経験

	小学校の校舎が木造		小学校の校舎が木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
訪れたことがある	21	67.70%	23	46.00%	44	54.30%
訪れたことがない	10	32.30%	27	54.00%	37	45.70%
合計	31	100.00%	50	100.00%	81	100.00%

出典：筆者作成

(3) 廃校に対する評価

次に、ノスタルジアの観点から、廃校並びにその継承に対する人々の評価について、単純集計の結果から導かれる傾向を考察する。

第一に、小学校時の校舎が木造であったか木造以外であったかに関わらず、人々は木造校舎に対してノスタルジアを強く感じている。表 6-12 は、木造校舎に対して感じるノスタルジアの程度を「とても強くノスタルジーを感じる」を 5、「全くノスタルジーを感じない」を 1 として 5 段階で評点付けしてもらった結果である。この表に示されるように、全体としては 9 割近くの人が「4」「5」の点数を付けており、1 を付けた人は一人もいなかった。無回答を除き、評点値をそのまま使って平均を計算したところ、そのスコアは 4.358 と高い数値を示している。この傾向は小学校時の校舎のタイプ別にみても一貫しており、両タイプにおいてほとんどの回答者が「4」「5」の点数を付け、平均値も木造校舎に通っていた人については 4.419、木造以外の校舎に通っていた人については 4.320 と大差がない。これは木造校舎に通った経験がある人が木造校舎に個人的ノスタルジアを感じているだけでなく、木造校舎に通った経験がない人でもこうした建物に歴史的ノスタルジアを感じることを裏付けるものである。独立性の検定における検定統計量の値は 0.372、p 値は 0.946 となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は、有意水準 10% で棄却されなかった。

表 6-12 木造校舎に対して感じるノスタルジアの程度

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (全くノスタルジーを感じない)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	1	3.2%	2	4.0%	3	3.7%
3	2	6.5%	4	8.0%	6	7.4%
4	11	35.5%	20	40.0%	31	38.3%
5 (とても強くノスタルジーを感じる)	17	54.8%	24	48.0%	41	50.6%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

第二に、今回のイベント会場である旧質美小学校の雰囲気に対する人々の満足度は非常に高い。表 6-13 は、旧質美小学校の雰囲気に対する評価を「とても良い雰囲気だと思う」を 5、「とても悪い雰囲気だと思う」を 1 として 5 段階で評点付けしてもらった結果である。木造校舎に対する評価と同様に、全体では 9 割を超える人が「4」「5」点を付けており、平

均値も 4.617 と 4.5 を超えている。小学校時の校舎のタイプ別にみても大きな差は見られず、平均値でみても木造校舎に通っていた人が 4.452、木造以外の校舎に通っていた人が 4.720 と極めて高い値を示している。特に木造以外の校舎に通っていた人の中で「5」を付けた人が 74.0%を占めており、旧質美小学校の校舎に強い歴史的ノスタルジアを感じている傾向がうかがえる。独立性の検定における検定統計量の値は 2.654、p 値は 0.448 となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は、有意水準 10%で棄却されなかった。

表 6-13 旧質美小学校の雰囲気に対する評価

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (とても悪い雰囲気だと思う)	1	3.2%	0	0.0%	1	1.2%
2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	2	6.5%	1	2.0%	3	3.7%
4	9	29.0%	12	24.0%	21	25.9%
5 (とても良い雰囲気だと思う)	19	61.3%	37	74.0%	56	69.1%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

第三に、人々は廃校を将来に渡って継承することを重要だと考えている。表 6-14 は、人々が考える廃校継承の重要度を「とても重要」を 5、「全く重要ではない」を 1 として 5 段階で評点付けしてもらった結果である。全体では 8 割を超える人が「4」「5」を付け、「1」を付けた人は一人もいなかった。スコアの平均値も 4.313 と高い値を示している。一方で小学校時の校舎のタイプ間で比較すると、平均値では木造校舎に通っていた人が 4.300、木造以外の校舎に通っていた人が 4.320 とほとんど差がみられなかったものの、回答の構成には違いがみられる。前者は「5」を付けた人が 51.6%と最も多く、「3」「4」を付けた人も一定数いる一方で、後者は「4」「5」がそれぞれ 48.0%、44.0%と高い値を示し、「3」を付けた人はほとんどいない。従って木造校舎に個人的ノスタルジアを感じる人について廃校の継承を強く求める人が多いといえるが、その強度が弱い人も含めれば、歴史的ノスタルジアを感じる人の方が廃校継承を求める人が多いといえよう。独立性の検定における検定統計量の値は 9.968、p 値は 0.019 となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は、有意水準 5%で棄却された。

表 6-14 廃校継承の重要度

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (全く重要ではない)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	0	0.0%	2	4.0%	2	2.5%
3	7	22.6%	2	4.0%	9	11.1%
4	7	22.6%	24	48.0%	31	38.3%
5 (とても重要)	16	51.6%	22	44.0%	38	46.9%
無回答	1	3.2%	0	0.0%	1	1.2%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

(4) 当活動に対する評価

最後に、当団体が実験的に営業した「ノスタルジックカフェ」について、ノスタルジックな店舗デザインや提供したメニューに対する評価を考察する。

第一に、視覚、味覚、聴覚の観点から提案したノスタルジアを喚起する店舗デザインの中では、人々は味覚、すなわち学校給食をベースとしたメニューの提供を最も高く評価する。上述の通り、当イベントでは視覚、味覚、聴覚の観点から廃校カフェにおいてノスタルジアを喚起する店舗デザインを提案し、それを実践した。具体的には視覚の観点からは学校風景をプロジェクターで映写することを、味覚の観点からは学校給食をベースとしたメニューを提供することを、聴覚の観点からはリコーダーなどの楽器をフィーチャーしたBGMを流すことを行った。図 6-1 はそれぞれのデザインに対して「とても魅力的」を 5、「全く魅力的でない」を 1 として、回答者に 5 段階で評点付けしてもらった結果である。より詳細な情報は、表 6-15～表 6-17 に示されている。これらの図表からわかるように、全体で見ると味覚については「5」を付けた人が最も多く、44.4%を占めているのに対して「1」「2」を付けた人は一人もいなかった。一方で視覚については「3」を付けた人が、聴覚については「2」「3」を付けた人が最も多い結果となった。スコアの平均値でも味覚については 4.316 であったのに対し、視覚は 3.671、聴覚は 3.701 と味覚の平均スコアを下回っている。カフェという飲食をする場所であるがゆえに、味覚の観点からノスタルジアを喚起する店舗デザインがより高く評価される結果になったものと考えられる。

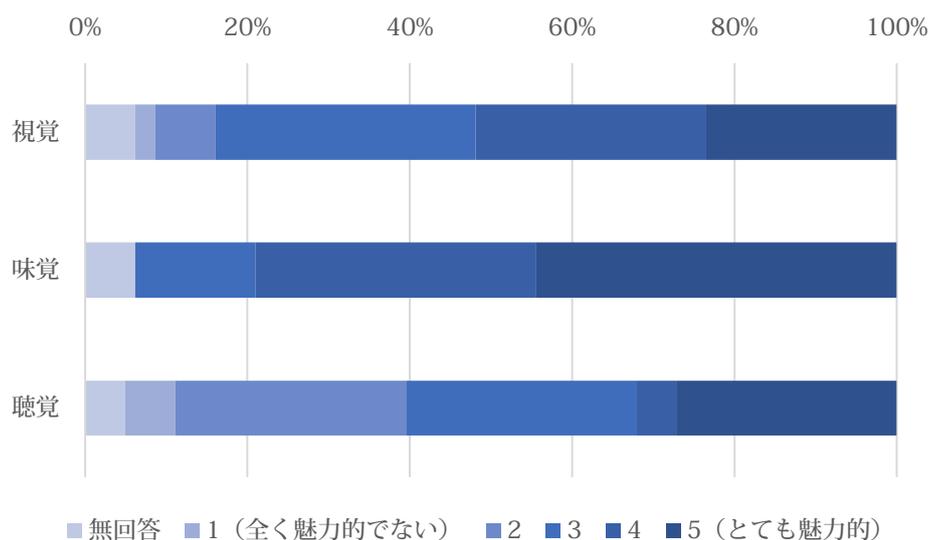


図 6-1 当イベントのノスタルジックデザインに対する評価（全体）

出典：筆者作成

表 6-15 当イベントのノスタルジックデザインに対する評価（視覚）

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (全く魅力的でない)	0	0.0%	2	4.0%	2	2.5%
2	0	0.0%	6	12.0%	6	7.4%
3	10	32.3%	16	32.0%	26	32.1%
4	8	25.8%	15	30.0%	23	28.4%
5 (とても魅力的)	11	35.5%	8	16.0%	19	23.5%
無回答	2	6.5%	3	6.0%	5	6.2%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

表 6-16 当イベントのノスタルジックデザインに対する評価（味覚）

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1（全く魅力的でない）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	6	19.4%	6	12.0%	12	14.8%
4	13	41.9%	15	30.0%	28	34.6%
5（とても魅力的）	10	32.3%	26	52.0%	36	44.4%
無回答	2	6.5%	3	6.0%	5	6.2%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

表 6-17 当イベントのノスタルジックデザインに対する評価（聴覚）

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1（全く魅力的でない）	1	3.2%	4	8.0%	5	6.2%
2	8	25.8%	15	30.0%	23	28.4%
3	10	32.3%	13	26.0%	23	28.4%
4	2	6.5%	2	4.0%	4	4.9%
5（とても魅力的）	9	29.0%	13	26.0%	22	27.2%
無回答	1	3.2%	3	6.0%	4	4.9%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

小学校時の校舎のタイプ間で比較すると、視覚についてのみ統計的に有意な違いが認められた。独立性の検定における検定統計量の値は、視覚については 8.185 (p 値は 0.085)、味覚については 3.169 (p 値は 0.205)、聴覚については 1.362 (p 値は 0.851) であった。表 6-15 をみると、木造校舎に通っていた人の方が学校風景の映写をより高く評価していることがわかる。これは、上述の通り木造校舎に通っていた人の多くが地元質美在住者であることが強く作用した結果だと思われる。今回質美小学校の当時の学校風景をスライドショーで流したため、それを懐かしむ人々がこのデザインを高く評価した可能性が高い。

第二に、提供するカフェメニューとしては、地元食材を使用したものがより多く選択される。今回当イベントではコッペパンをメインとする給食メニューを提供したが、表 6-18 に示されるように、そのコッペパンとして最も多く注文を受けたのは「きな粉揚げパン」であり、次いでそれとほぼ変わらない数で「黒豆きな粉コッペ」であった。第 4 章で述べたよう

に今回提供したメニューの製造にあたっては、できる限り京都産のものを使用するよう努めたが、とりわけこれらのコッペパンには京丹波産の黒豆や黒豆きな粉といった地元産の食材が使われている。こうした地元食材の積極的な使用は、その廃校カフェの魅力をより高めるものと期待される。なお小学校時の校舎のタイプ間では、その傾向に違いは見られなかった。

表 6-18 注文を受けたコッペパンメニュー（非制限の複数回答）

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
きな粉揚げパン	10	32.3%	18	36.0%	28	34.6%
抹茶揚げパン	8	25.8%	12	24.0%	20	24.7%
黒豆きな粉コッペ	10	32.3%	17	34.0%	27	33.3%
黒豆抹茶コッペ	6	19.4%	8	16.0%	14	17.3%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

表 6-19 は回答者が注文したコッペパンに対する評価を示している。「とても美味しかった」を5、「とても不味かった」を1として5段階で評点付けしてもらった結果である。全体でみても、小学校時の校舎のタイプ別にみても、「4」「5」を付けた人が8割を超えており、「1」「2」を付けた人は一人もいなかったことから、当団体が提供したコッペパンは利用者に高く評価してもらったことがわかる。平均スコアでみても、全体が4.533、木造校舎に通っていた人が4.433、木造以外の校舎に通っていた人が4.600となり、その評価の高さが確認される。独立性の検定における検定統計量の値は2.060、p値は0.357となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は、有意水準10%で棄却されなかった。

表6-19 注文したコッペパンに対する評価

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (とても不味かった)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	3	9.7%	4	8.0%	7	8.6%
4	11	35.5%	10	20.0%	21	25.9%
5 (とても美味しかった)	16	51.6%	31	62.0%	47	58.0%
無回答	1	3.2%	5	10.0%	6	7.4%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

第三に、当団体が開催した「ノスタルジックカフェ」は利用者に高く評価された。表 6-20 は、ノスタルジックカフェに対する満足度を「とても満足」を5、「とても不満」を1として5段階で評点付けしてもらった結果である。全体でみると「5」の評価を付けた人が43.2%と最も多く、「1」「2」を付けた人は一人もいなかった。スコアの平均値も4.351と高い値を示している。しかしながら小学校時の校舎のタイプ別にみると、回答の構成は若干異なっている。木造以外の校舎に通っていた回答者については「5」を付けた人が最も多く、58.0%を占めているが、木造校舎に通っていた回答者については「4」を付けた人が61.3%と最も多く、「5」を付けた人は19.4%に止まった。平均値でみてもそれぞれ4.553と4.003と少し開きが見られる。たびたび指摘するように木造校舎に通っていた回答者には多くの地元在住者が含まれることから、それらの人々にとって当カフェは比較的新鮮に映らなかった可能性がある。独立性の検定における検定統計量の値は12.964、p値は0.002となり、小学校時の校舎が木造であった人と木造以外であった人との間で回答構成に差がないという仮説は、有意水準1%で棄却された。

表 6-20 ノスタルジックカフェに対する評価

	小学校時の校舎が 木造		小学校時の校舎が 木造以外		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (とても不満)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	5	16.1%	3	6.0%	8	9.9%
4	19	61.3%	15	30.0%	34	42.0%
5 (とても満足)	6	19.4%	29	58.0%	35	43.2%
無回答	1	3.2%	3	6.0%	4	4.9%
合計	31	100.0%	50	100.0%	81	100.0%

出典：筆者作成

7. 廃校カフェのノスタルジックデザインに対する選好と支払意思額

7.1 効用関数の推定結果

第5章で述べた選択型実験の回答データと、条件付きロジットモデルを用いて、(5.1)式の木造廃校カフェの店舗デザインに関する効用関数（主効果モデル）を推定した。表7-1に示されるように、*TASTE*と*HEARING*の係数が1%水準で有意となり、正の符号を示した。これらの結果は、人々は現代的なカフェメニューを提供する廃校カフェよりも学校給食をベースとするメニューを提供する廃校カフェを、そして現代的なカフェ音楽を流す廃校カフェよりもリコーダーやオルガンを使った音楽を流す廃校カフェを選好することを意味しており、これらのノスタルジックな店舗デザインを取り入れることが集客面で効果的であることを含意する。一方、*VISION*のp値は0.5224で有意とはならなかった。この結果は学校風景の映写は、少なくとも平均的には人々の廃校カフェの訪問選択に影響を与えないことを示している。従って、廃校カフェに取り入れるノスタルジックデザインとしては、視覚よりも味覚、聴覚に力点を置くべきだと提案される。なお、*COST*の係数は負となり、旅行費用が大きくなるほど人々の効用は下がるという自然な傾向を示している。

表 7-1 効用関数の推定結果（主効果・フルモデル）

変数	係数推定値	t 統計量	p 値
<i>VISION</i> (学校風景の映写)	0.1159	0.6397	0.5224
<i>TASTE</i> (給食メニュー)	1.1079	5.7064	0.0000
<i>HEARING</i> (懐かしい楽器を使った BGM)	0.8236	4.4844	0.0000
<i>COST</i> (一人当たり往復の旅費)	-0.0006	-6.9225	0.0000
<i>NEITHER</i> (どちらも行かない)	-1.5610	-5.3089	0.0000
対数尤度	-263.00		
AIC	536.00		
標本サイズ	307		

出典：筆者作成

表 7-2 は、有意とならなかった *VISION* を (5.1) 式から除き、その定式化の下で効用関数を再度推定した結果である。全ての変数の p 値は 1% 水準となり、AIC は表 7-1 のフルモデルよりも小さくなっている。このことから、表 7-2 のモデルを最適な主効果モデルとして採択し、支払意思額の計測に利用する。

表 7-2 効用関数の推定結果（主効果・最適モデル）

変数	係数推定値	t 統計量	p 値
<i>TASTE</i> (給食メニュー)	1.0685	5.8170	0.0000
<i>HEARING</i> (懐かしい楽器を使った BGM)	0.7955	4.4605	0.0000
<i>COST</i> (一人当たり往復の旅費)	-0.0006	-6.8785	0.0000
<i>NEITHER</i> (どちらも行かない)	-1.6389	-6.0849	0.0000
対数尤度	-263.21		
AIC	534.41		
標本サイズ	307		

出典：筆者作成

7.2 支払意思額の計測結果

表 7-2 で表される効用関数を用いて、表 5-4 に示した計算方法に従い、味覚と聴覚のそれぞれの観点から考案したノスタルジアを喚起する廃校カフェデザインに対する支払意思額を計測した。その結果、学校給食をベースとするメニューがある廃校カフェに対する追加的な支払意思額は 1783 円、リコーダーなど懐かしい楽器を使った BGM が流れる廃校カフェに対する追加的な支払意思額は 1327 円となった (表 7-3)。これらの金額は、現代的なメニュー、あるいは現代的な音楽を取り入れた廃校カフェと比較して、各ノスタルジックデザインを施した廃校カフェに行く代わりにそれぞれ上がってもよいと思う旅行費用を意味

する。従って、例えば現代的なカフェメニューを提供する廃校カフェと、それよりも離れた場所にある給食メニューを提供する廃校カフェとがあるとき、人々は、前者のカフェから後者のカフェに移動するのにかかる費用が一人当たり 1783 円未満であれば後者を選択するといえる。BGM についても同様の考察が当てはまる。

表 7-3 支払意思額の推定結果

評価対象	支払意思額
学校給食をベースとするメニューがある廃校カフェに対する追加的な支払意思額	1783 円
懐かしい楽器を使った BGM が流れる廃校カフェに対する追加的な支払意思額	1327 円

出典：筆者作成

7.3 ノスタルジックデザインの相乗効果の検証

次に、給食メニューの提供と懐かしい楽器を使った BGM の演奏という 2 つのノスタルジアを喚起するデザインが組み合わさることによって、それぞれから得られる効用に相乗効果が生まれるかどうかを分析する。そのために、(5.1) 式の効用関数に *TASTE* と *HEARING* の交差項を加えて、モデルの再推定を行った。(5.1) 式の観察可能な部分 *V* にのみ注目すると、このモデルは次のように拡張される。

$$V = \beta_V VISION + \beta_T TASTE + \beta_H HEARING + \beta_C COST + \gamma_{TH} TASTE \times HEARING \quad (7.1)$$

ここで、給食メニューの提供から得られる効用をみるために、便宜上 *TASTE* を連続変数とみなして、*V* を *TASTE* で微分すると、次式が得られる。

$$\frac{\partial V}{\partial TASTE} = \beta_T + \gamma_{TH} HEARING \quad (7.2)$$

HEARING はその廃校カフェで流れる BGM が懐かしい楽器を使った音楽であれば 1、現代的な音楽であれば 0 をとる変数なので、もし γ_{TH} が正であるならば、懐かしい楽器を使った BGM を流すことで、人々の給食メニューを楽しむことから得られる効用は上昇するといえる。従って、 γ_{TH} が正の符号をとることが、ここでの相乗効果の存在を支持するための条件となる。

表 7-4 は、この拡張されたモデルの推定結果である。*TASTE* × *HEARING* の係数に注目すると、その p 値は 0.2191 と 0.1 を上回っており、10%水準でこの係数が 0 であるという

帰無仮説は棄却されなかった。従ってここでは、給食メニューの提供と懐かしい楽器を使った BGM の演奏という 2 つのノスタルジックデザインの組みあわせによる相乗効果は存在しないことを結論付ける。

表 7-4 効用関数の推定結果 (TASTE と HEARING の交差項を含む)

変数	係数推定値	t 統計量	p 値
<i>VISION</i> (学校風景の映写)	0.0720	0.3913	0.6956
<i>TASTE</i> (給食メニュー)	1.4926	4.0193	0.0001
<i>HEARING</i> (懐かしい楽器を使った BGM)	1.1881	3.3652	0.0008
<i>COST</i> (一人当たり往復の旅費)	-0.0006	-6.9571	0.0000
<i>NEITHER</i> (どちらも行かない)	-1.3936	-4.2857	0.0000
<i>TASTE</i> × <i>HEARING</i>	-0.6130	-1.2290	0.2191
対数尤度	-262.24		
AIC	536.48		
標本サイズ	307		

出典：筆者作成

7.4 ノスタルジックデザインに対する選好とノスタルジアのタイプとの関係

最後に、廃校カフェのノスタルジックデザインに対する選好が、個人的ノスタルジアを感じる人と歴史的ノスタルジアを感じる人との間でどのように異なるかを分析する。そのため、小学校時の校舎が木造であった人（木造校舎に個人的ノスタルジアを感じる人）を 1、木造以外であった人（木造校舎に歴史的ノスタルジアを感じる人）を 0 とする変数、*PERSONAL* を定義し、それとノスタルジックデザインを表す変数、*VISION*、*TASTE*、*HEARING* との交差項を含めて効用関数の再推定を行った。

表 7-5 は、この交差効果モデルの推定結果である。*PERSONAL* × *HEARING* は有意とはならなかったが、*PERSONAL* × *VISION*、および *PERSONAL* × *TASTE* はそれぞれ 5% 水準で有意となり、係数は負の値を示している。これらの結果は、個人的ノスタルジアを感じる人よりも歴史的ノスタルジアを感じる人の方が、木造廃校カフェにおける学校風景の映写、ならびに給食メニューの提供をより高く評価することを意味している。

表 7-5 効用関数の推定結果（ノスタルジアのタイプと店舗デザインとの交差項を含む）

変数	係数推定値	t 統計量	p 値
<i>VISION</i> (学校風景の映写)	0.3925	1.8011	0.0717
<i>TASTE</i> (給食メニュー)	1.3968	5.9880	0.0000
<i>HEARING</i> (懐かしい楽器を使った BGM)	0.8253	3.8247	0.0001
<i>COST</i> (一人当たり往復の旅費)	-0.0006	-6.9105	0.0000
<i>NEITHER</i> (どちらも行かない)	-1.6116	-5.3956	0.0000
<i>PERSONAL</i> (個人的ノスタルジア) × <i>VISION</i>	-0.7868	-2.3843	0.0171
<i>PERSONAL</i> (個人的ノスタルジア) × <i>TASTE</i>	-0.7261	-2.3991	0.0164
<i>PERSONAL</i> (個人的ノスタルジア) × <i>HEARING</i>	0.0869	0.2962	0.7670
対数尤度	-257.37		
AIC	530.74		
標本サイズ	307		

出典：筆者作成

この推定結果をもとに、個人的／歴史的ノスタルジアを感じる人の各ノスタルジックデザインに対する支払意思額を計算した。表 7-6 に示されるように、学校風景の映写については、上述の通り平均的には人々の効用に作用しないことが示されたが、歴史的ノスタルジアを感じる人の支払意思額は 638 円となり、木造校舎に通っていなかった人はそのデザインをプラスに評価していることがわかる。従って、若い世代に向けては、こうした視覚の観点からノスタルジアを喚起する店舗デザインも集客につながるということが指摘される。一方で木造校舎に通っていた人の学校風景の映写に対する支払意思額はマイナスとなった。木造校舎に個人的ノスタルジアを感じている人は、自身の出身校の風景に強いノスタルジアを覚える分、一般の学校風景にはむしろ関心を示さず、むしろそれが無いカフェ環境を望むのかもしれない。給食メニューの提供については、歴史的ノスタルジアを感じる人の支払意思額は 2270 円となり、個人的ノスタルジアを感じる人の約 2 倍の金額を示している。このことから、学校給食に対するノスタルジアは木造校舎で過ごしてこなかった人の方が強く、ノスタルジックなカフェメニューを取り入れながら、それを比較的若い世代に向けてアピールすることの有効性が提案される。

表 7-6 小学校時の校舎のタイプ別にみたノスタルジックデザインに対する支払意思額

ノスタルジックデザイン	支払意思額	
	小学校時の校舎が木造 (個人的ノスタルジア)	小学校時の校舎が木造以外 (歴史的ノスタルジア)
学校風景の映写 (視覚)	-691 円	638 円
給食メニューの提供 (味覚)	1090 円	2270 円

出典：筆者作成

8. おわりに

本研究では、視覚、味覚、聴覚の観点から廃校カフェにおいてノスタルジアを喚起する店舗デザインを提案し、それらに対する人々の選好を分析することに取り組んだ。その際には、京都府京丹波町の旧質美小学校内「喫茶ランチルーム」にてノスタルジックデザインを施した廃校カフェを実験的に営業すると共に、京都府、奈良県、三重県にある木造の廃校カフェを紹介するパンフレットを作成し、それを広く配布した。そしてそのカフェ利用者を対象にアンケート調査を行い、選択型実験を用いて廃校の店舗デザインに関する効用関数を推定し、さらにそこから各ノスタルジックデザインに対する支払意思額を計測した。

本分析により得られた主要な結果は以下の 4 つに要約される。(1) 廃校カフェにおけるノスタルジックデザインの中で、学校給食をベースとするメニューの提供 (味覚) が最も高く評価され、その支払意思額は 1783 円である。次いで懐かしい楽器を使った BGM の演奏 (聴覚) に対する支払意思額が 1327 円となり、学校風景の映写 (視覚) は平均的には人々の効用に有意な影響を与えない。(2) 木造校舎にノスタルジアを感じる人は約 90% に上り、それは木造校舎に個人的ノスタルジアを感じる人と歴史的ノスタルジアを感じる人との間で差が見られない。(3) 学校給食をベースとするメニューの提供に対する支払意思額は、歴史的ノスタルジアを感じる人については 2270 円、個人的ノスタルジアを感じる人は 1090 円となり、木造校舎に歴史的ノスタルジアを感じる人の方が個人的ノスタルジアを感じる人よりもそのノスタルジックデザインを高く評価する。(4) 学校風景の映写は平均的には人々の効用に作用しないが、歴史的ノスタルジアを感じる人はそのデザインに対して 638 円の支払意思を持つ。

以上の結果より、全体的には、味覚と聴覚の観点からノスタルジアを喚起するデザインを木造廃校カフェに取り入れることがその集客に向けて有効であると結論付けられる。加えて、味覚と視覚の観点から提案されるノスタルジックデザインをより高く評価するのは、木造校舎を「懐かしむ」人 (個人的ノスタルジア) よりも「憧れる」人 (歴史的ノスタルジア)

を感じる人)であることが示され、当ゼミが作成したパンフレットの表紙に示した仮説「郷愁誘う木造校舎に憧憬する」が支持されるといえる。今回とりわけ高く評価された学校給食をベースとするメニューの提供は、小学校時に木造校舎で過ごしてこなかった人、すなわち歴史的ノスタルジアを感じる人にとってより魅力的であり、ノスタルジックなカフェメニューを取り入れつつ、それを比較的若い世代に向けてアピールすることが有効だといえよう。

今回導いた支払意思額はノスタルジックデザインを施した木造廃校カフェを訪れるのに上がっても良いと思う旅行費用で測られており、それは同時にそのようなノスタルジックデザインを取り入れた廃校カフェが社会にもたらす(利用者一人当たりの)便益の大きさを表す。従ってその情報は、利用者がより魅力的だと思う店舗デザインを提示するという点で店舗オーナーの経営を助けるだけでなく、その便益が費用を上回る限りは、それらのデザインを廃校カフェに施す取り組みに対する行政支援の根拠にもなりうる。上述の通り、多くの廃校カフェが収益性の面で課題を抱えており、ヒアリングの中で行政との連携を課題としてあげる店舗も見られた。廃校を今後適切に残していくためには、より社会的価値の高い廃校カフェにより大きな支援を行うなど、その廃校カフェがもたらす社会便益を適正に内部化することが必要だと思われる。

補論 クラウドファンディングの結果と活動の収支

A.1 クラウドファンディングの概要

当活動は、国内最大級の規模を誇る CAMPFIRE のサイトを通して、クラウドファンディングにより活動資金を調達した(図 A-1)¹⁷。クラウドファンディングのタイプは、支援金の規模に応じて様々なリターン品を返送する「購入型」であり、目標金額に達成しない場合でも、支援頂いた分のお金を受け取ることができる「All in 方式」を採用した。期間は2023年11月7日(火)から2023年12月10日(日)までの35日間で、目標金額は20万円であった。リターン品は表 A-1 のように整理される。当団体が今回製作した廃校カフェのパンフレットに加えて、そこで紹介した桐林館喫茶室 筆談カフェ提供のドリップコーヒーと筆談ノート、さらには過去のゼミ活動の中で作成したレシピ集や、前回のクラウドファンディング¹⁸の際に好評を得た「ヨシストロー」も制作し、リターン品に含めた。

¹⁷ 当プロジェクトの専用ページ (<https://camp-fire.jp/projects/view/717705>) を参照

¹⁸ 2022年度に当ゼミが取り組んだ「リユースによるヨシストロー社会実装化促進プロジェクト」のクラウドファンディングページ (<https://camp-fire.jp/projects/view/622868>) を参照



図 A-1 クラウドファンディングページのカバー画像

出典：筆者作成

表 A-1 クラウドファンディングのリターン一覧

コース名	金額	内容
基本セットコース	2000 円	手書きのお礼の手紙 分析結果の速報 廃校カフェ紹介パンフレット「京都・奈良・三重の廃校・木造校舎カフェ」
筆談カフェコース	5000 円	基本セットコースのリターン オリジナルラベル付きドリップパック 筆談カフェ用ノート
ゼミ成果物コース	5000 円	基本セットコースのリターン 滋賀の米粉スイーツ・古民家カフェ紹介パンフレット「米粉スイーツ×古民家カフェ」 滋賀の古書店・ブックカフェ「書をたずさえてカフェに行こう」 近江の彩り べんがら色彩スイーツ&ミール レシピ集 愛彩菜でカフェメニュー クッキングレシピ集
ヨシストローコース	5000 円	基本セットコースのリターン ヨシストロー2本〔未使用とリユース〕 ヨシストロー紹介パンフレット「ヨシストローで#SDGs」 ヨシストロー紹介パンフレット「リユースヨシストローでSDGs・MLGs」
報告書コース	12000 円	基本セットコースのリターン 研究成果報告書
全セットコース	20000 円	上記全てのリターン

出典：筆者作成

クラウドファンディングページでは活動の進捗状況を随時報告し、2024年2月15日時点で計22回の報告を行っている。また当ゼミのFacebookページ(@terawakiche)、Instagramアカウント(@terawaki.lab)に加え、当活動専用のXアカウント(@tera19th)でも進捗を紹介した。イベントの初日の後、2023年11月22日(水)には、@Pressよりプレスリリースを配信し、そこでも二日目のイベントと併せて当団体のクラウドファンディングの取り組みを紹介した。

A.2 クラウドファンディングの結果

クラウドファンディングの結果、延べ31人の方々から合計22万5千円の支援をいただき、その達成率は112%となった。購入されたコースの分布は図A-2の通りである。最も多く購入されたのは5000円の筆談カフェコースであった。男女別に見た支援者数は、男性が12人(38.7%)、女性が19人(61.3%)であった。支援者の年代分布は図A-3のよう

に表される。この図から、20代、30代といった若い世代からの支援が多かったことが分かる。

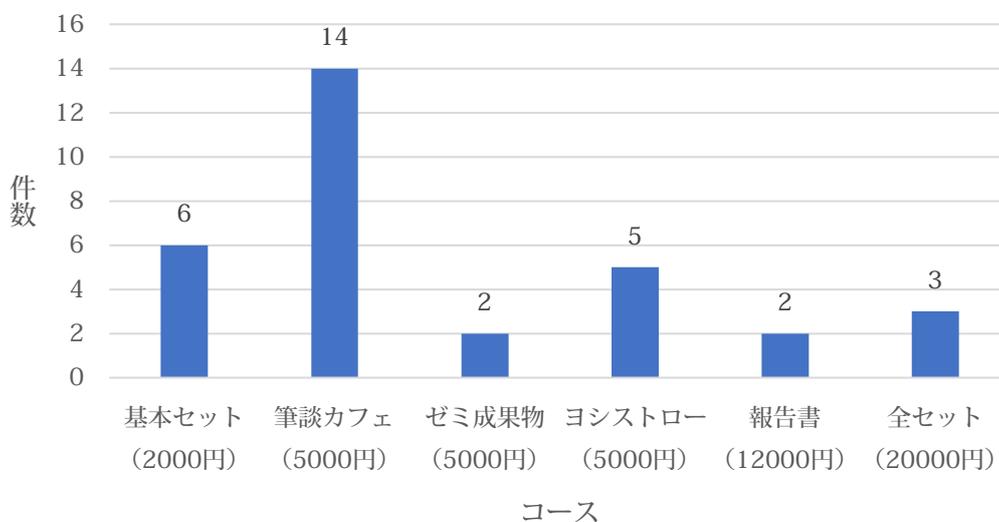


図 A-2 購入されたコースの分布

出典：CAMPFIRE より提供されたデータから筆者作成

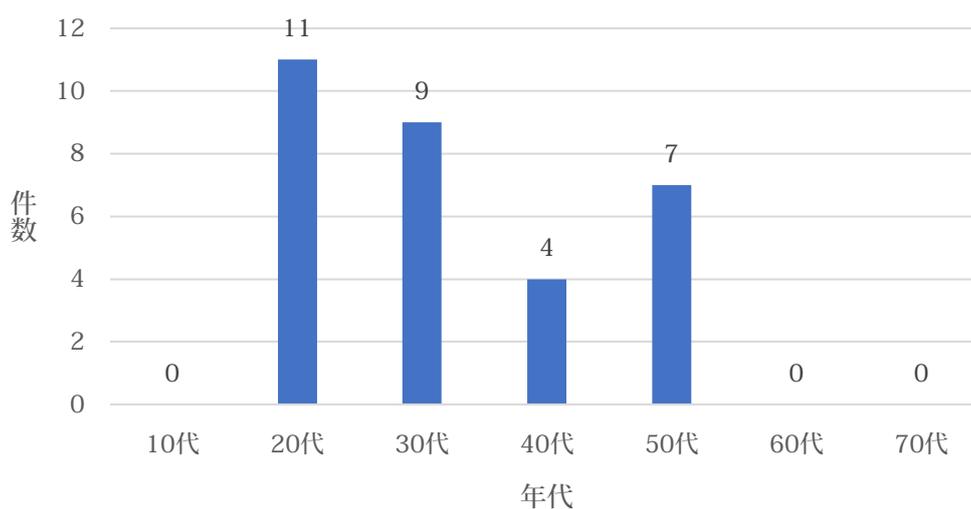


図 A-3 支援者の年代

出典：CAMPFIRE より提供されたデータから筆者作成

支援金が入金された日の推移は図 A-4 の通りである。広報に特に力を入れたイベント初日（11月18日）前後に支援が伸びている傾向が読み取られる。イベントの二日目（11月

25日)以降も少しずつ支援が増えており、SNSを中心に地道な広報活動を継続することの重要性が指摘される。最終的には、締め切りまで3日を残して12月7日に100%を達成した。支払い方法で最も多かったのはクレジットカードであり、PayPay や楽天ペイといったQRコード決済、コンビニ払いも見られた。

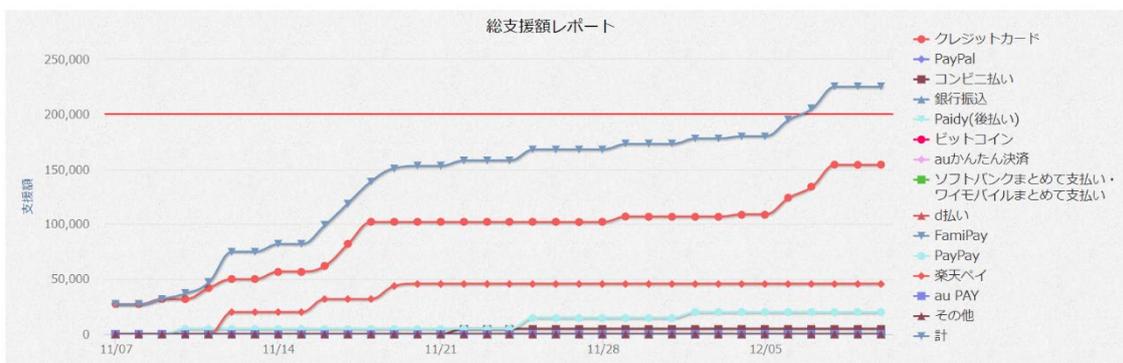


図 A-4 支援金の推移

出典：CAMPFIRE より提供

募集期間中、当団体は専用ページ内で20回、進捗状況をレポートした。図A-5に示されるように、ページへのアクセスは、募集開始直後とイベント当日、そして募集終了直前に多く見られ、そのタイミングで活動の目標をアピールしたり、進捗を報告したりすることが効果的だと思われる。



図 A-5 ページへのアクセスの推移

出典：CAMPFIRE より提供

図 A-6 は参照元別に見たページへのアクセス数の推移である。ほとんどは直接アクセスとサイト内訪問であるが、過年度と比べれば開設時におけるInstagramからの流入が多い。

こうした SNS からの流入を開設時以降もどのようにして維持させるかが今後の課題である。

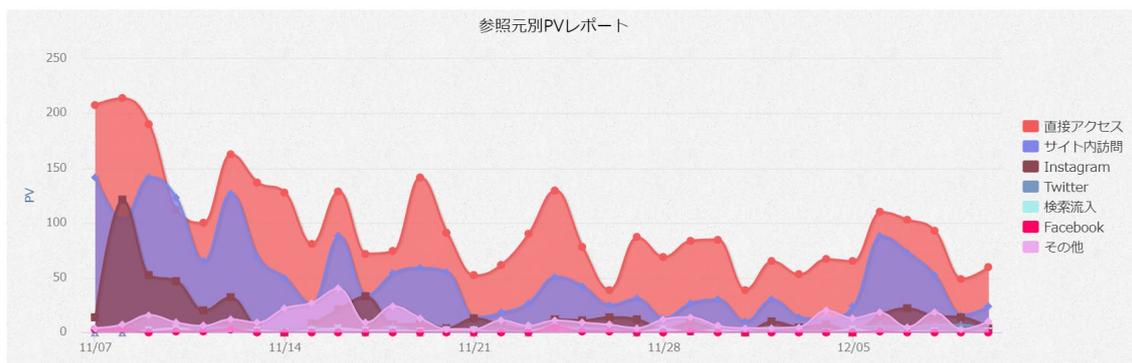


図 A-6 参照元別ページへのアクセスの推移

出典： CAMPFIRE より提供

A.3 収支報告

今回当団体が取り組んだ活動「ノスタルジック・デザインによる廃校・木造校舎カフェ価値向上プロジェクト」の収支は表 A-2 のように要約される。

表 A-2 2023 年度プロジェクト収支報告

	項目	円	備考
収入の部	クラウドファンディング支援金	¥225,000	31 人からの支援金
	大学からの補助	¥61,640	交通費（学びのコミュニティ）
	大学からの補助	¥61,640	交通費（経済学会ゼミ活動補助費）
	大学からの補助	¥122,034	報告書印刷費用の一部
	寄付	¥12,566	寺脇先生より
収入合計		¥482,880	
支出の部	クラウドファンディング手数料など	¥42,075	支援金の 17%、消費税
	印刷費	¥21,065	パンフレット
	印刷費	¥150,793	報告書
	材料費	¥9,037	提供メニュー試作費
	消耗品費	¥77,565	イベント用食材・備品
	消耗品費	¥11,414	リターン品の購入
	広報費	¥11,000	@Press からのプレスリリース
	配送費	¥12,126	パンフレット・リターンなどの送料
	交通費	¥147,805	調査・交渉の交通費
支出合計		¥482,880	
2023 年度収支		¥0	

注：報告書の印刷費、リターンの配送料は見積金額である。

出典：筆者作成

引用文献

■日本語文献

朝日新聞（2019）「昭和レトロ」宿場町に脚光 廃校カフェ・旅館改修した食堂 いなべ・阿下喜」2019 年 7 月 2 日

朝日新聞（2016）「絶景廃校カフェ、地元で活気 皆野の「天空の楽校」5 周年」2016 年 5 月 27 日

小川喬史・北神慎司・川口潤（2021）「歴史的ノスタルジアを喚起する風景画像: Web 調査による分析」日本認知心理学会第 17 回大会, P1-26

川口潤・佐藤綾香・伊藤友一・波多野文・大塚幸生（2011）「ノスタルジア感はどのように生じるのか：反応時間を指標として」『日本認知科学大会発表論文集』 pp.134-138

京都市教育委員会京都市学校歴史博物館編（2016）『京都学校物語』京都通信社

栗山浩一・庄子康（2005）『環境と観光の経済評価』勁草書房

栗山浩一・馬奈木俊介（2020）『環境経済学をつかむ：第 4 版』有斐閣

- 黒川由紀子 (2021) 「回想法におけるエビデンスと臨床の知—野村論文へのコメント—」『心理学評論』第 64 巻第 1 号, pp.155-159
- 厚生労働省 (2023) 「出生数、合計特殊出生率の推移」『令和 5 年版厚生労働白書』
(<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/22-2/kousei-data/siryoush0100-01-b1.xlsx>)
参照日：2024 年 1 月 30 日
- 小林正法・大竹恵子 (2018) 「主観的幸福感と抑うつ傾向がノスタルジア状態の喚起に与える影響—音楽によるノスタルジア状態喚起を用いて」『パーソナリティ研究』27.2.6
- 崔順踊 (2023) 「まだまだ続くレトロブーム！ 2023 年もメーカー各社から復刻商品が続々！」
『DIAMOND Chain Store』(<https://diamond-rm.net/sales-promotion/464055/>) 参照日：2024 年 2 月 15 日
- 社会教育実践研究センター (2017) 『地域学校協働活動推進のための地域コーディネーターと地域連携担当教職員の育成研修ハンドブック』国立教育政策研究所
- 寺脇拓ゼミ (2022) 『米粉スイーツ&古民家カフェによる日本の原風景継承プロジェクト 報告書』立命館大学寺脇拓ゼミ
- 富田雅義 (2018) 「においと記憶」『室蘭市医師会誌』第 29 号
(<https://www.med.or.jp/nichiionline/article/008191.html>) 参照日：2023 年 7 月 17 日
- 内府府 (2023) 「第 1 章 高齢化の状況 (第 1 節 1)」『令和 5 年版高齢社会白書』
(https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/html/zenbun/s1_1_1.html) 参照日：2024 年 1 月 30 日
- 日本経済新聞 (2024) 「23 年 1~11 月の出生数、69.6 万人 前年同期比 5.3%減」2024 年 1 月 23 日
(<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA237C20T20C24A1000000/>) 参照日：2024 年 1 月 30 日
- 日本経済新聞 (2023) 「廃校カフェ 遊びに来て 栃木・板金加工のヤマダ ものづくりの魅力発信」2023 年 9 月 27 日
- 萩原雅也 (2017) 「京都都心部の校区コミュニティにおける廃校の文化資源的価値と地域再生に関する研究」『大阪樟蔭女子大学研究紀要』第 7 巻、p.228
- 堀内圭子 (2007) 「消費者のノスタルジア—研究の動向と今後の課題—」『成城文藝』第 201 号, pp.198-179
- 毎日新聞 (2015) 「廃校カフェ：集落きりり 関東→三好、移住の姉妹 ダンスに婚活、山あいに憩いの場」2015 年 3 月 5 日
- 文部科学省 (2023a) 『廃校活用事例集 未来につなごう みんなの廃校プロジェクト』
(https://www.mext.go.jp/content/20230331-mxt_sisetujo-000013314_00.pdf) 参照日：2024 年 1 月 31 日
- 文部科学省 (2023b) 「学校基本調査」(https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?stat_infid=000031852316) 参照日：2024 年 1 月 30 日
- 文部科学省 (2022) 「令和 3 年度 公立小中学校等における廃校施設及び余裕教室の活用状況について」

(https://www.mext.go.jp/content/20220331-mxt_sisetujo-000012748_1.pdf) 参照日：2023年7月17日

吉田伸之 (2006) 「単位地域」について 『飯田市歴史研究所年報』 第4巻、pp.93-99

読売新聞 (2022) 「廃校カフェ 郷愁味わう 日高・旧比井小 学習机も活用」 2022年12月16日

読売新聞 (2019) 「廃校カフェ 笑顔集う 有田川・粟生地区 住民ら運営」 2019年9月13日

読売新聞 (2016) 「種子島の廃校カフェ人気 特産ショウガ使用 ケーキや紅茶」 2016年2月18日

読売新聞 (2015) 「廃校カフェ 地域に癒やし 智頭中3年企画 「脱出ゲーム」 も」 2015年8月23日

■英語文献

Havlena, W.J. and Holak, S.L. (1991) "The Good Old Days": Observations on Nostalgia and Its Role in Consumer Behavior. *Advances in Consumer Research*, 18, 323-329

Holbrook, M.B. and Schindler, R.M. (1991) Echoes of the Dear Departed Past: Some Work in Progress on Nostalgia. *Advances in Consumer Research*, 18, 330-333

Janata, P., Tomic, S.T. and Rakowski, S.K. (2007) Characterization of Music-evoked Autobiographical Memories. *Memory*, 15(8), 845-860.

Kessels, R., Jones, B. and Goos, P. (2011) Bayesian Optimal Designs for Discrete Choice Experiments with Partial Profiles. *Journal of Choice Modelling*, 4(3), 52-74

Lasaleta, J.D., Sedikides, C. and Vohs, K.D. (2014) Nostalgia Weakens the Desire for Money. *Journal of Consumer Research*, 41(3), 713-729

Muehling, D.D. and Sprott, D.E. (2004) The Power of Reflection: An Empirical Examination of Nostalgia Advertising Effects. *Journal of Advertising*, 33(3), 25-35

Stern, B.B. (1992a) Nostalgia in Advertising Text: Romancing the Past. *Advances in Consumer research*, 19, 388-389

Stern, B.B. (1992b) Historical and Personal Nostalgia in Advertising Text: The Fin de siècle Effect. *Journal of Advertising*, 21(4), 11-22

参考資料 A：小学校でノスタルジーを感じるもの（ヒアリング結果）

■ ノスタルジーを感じる場所・場面

<メンバーの親族>

- 放課の運動場
- 運動会の、リレーが盛り上がって楽しかった場面
- 教室
- 教室
- 運動場
- 校門、靴箱
- 運動場、運動会
- 運動会
- 田舎の学校ですので、体育館裏の焼却炉の落ち葉の焼ける匂いと場所にノスタルジーを覚えます。
- 校庭の芝生
- 小学校低学年の頃、木造体育館
- 冬のストーブ、給食の開始、運動会
- プールができたとき、運動会
- 運動場からみる校舎と体育館の風景、飼育室
- 運動場
- プール(平日開放)、図書室じゃなくて図書館があった(校舎の前に)、音楽室
- 渡り廊下
- 廊下
- 校門
- 教室、音楽会(木琴が上手く演奏出来たことが印象に残っている)
- 花壇
- 正門

<質美関係者>

- 図書館: 多くの時間を図書館で過ごしていました。
- 運動会は、学校と地域が一緒になって多人数だった。お昼にはお弁当を家族と一緒に、にぎやかに食べた事や、家族に来てもらえず教室で寂しく食べた事もあった。
- 中庭、靴箱
- 小高い裏庭があり、よく遊んだ。
- 夏休みになると、教室が臨海学校の宿舎になったため、机など全て片付けられた。
- 場所: 運動場
- 場面: 大きなイチョウの木があり、木陰でかくれんぼなどして遊んだ。今も立たずんでいます。
- 場所: (運動場) 登校後、学年をこえてドッチボールをしました。放課後はキックベースボールなどしま

した。

- 場面: (運動会) 地区あげてにぎやかでした。
- (給食) 脱脂粉乳のミルクが嫌いでした。
- 中庭
- 3年生の時、2階の教室になり、その真下が職員室で毎日ドタバタしていたのでよくしかられた
- 旧校舎→かたばみ池、つっぱりがしてあった体育館他 運動会他
- 新校舎→水洗便所の良し悪し、今小学校へ行き見るものすべて 運動会他
- 給食、食器、においなど 給食センターのとなりの小学校だったので
- 教室のレイアウト
- 放課後
- 教室、体育館、運動場、授業、運動会、文化祭
- 校舎のつかいぼう、入った所の廊下をぞうきんがけした事、給食室(新校舎)、当番制でのマキストーブの火つけ

■ ノスタルジーを感じる音・音楽

<メンバーの親族>

- チャイムの音
- 運動会で流れる「天国と地獄」、卒業式の歌の「仰げば尊し」
- 仰げば尊し
- 仰げば尊し
- 体育館のバスケットの音
- チャイムの音
- チャイム (鐘を鳴らしていたらしいです)
- 学校のチャイム
- 運動会の徒競走の音 (名前は解りませんが) に今でも懐かしさを感じています。
- 校歌
- 掃除時間に流れる大瀧詠一の曲
- チョーク、ぞうきんがけ
- 校歌
- チャイム、給食の前の献立の紹介
- 校歌
- 運動会の歌、鼓笛隊
- リコーダー
- チャイムの音
- 木造校舎だったから、歩いた時の木のきしむ音
- チャイム

- 校歌
- 終わりのチャイム

<質美関係者>

- 校歌
- 小学校の1、2年は分校に通っていて、そこでは今のチャイムが大きな鐘でガラーンガラーンと鳴っていた。(用務員さんが手に持って振っていた。)
- ハーモニカ、オルガン
- 低学年の時は鐘だった、用務員さんが叩く鐘の音(始業等を知らせる)
- 古い校舎があって、足音がよく聞こえ、続きに音楽室があって、ピアノの音がよく聞こえた。
- 授業の始まり、終わりに鳴る鐘の音(渡り廊下に吊り下げされていて、用務員さんが鳴らしておられた)
- 校歌
- チャイムの音、旧校舎の時間を知らせる鐘の音、校歌
- あまりおぼえていませんが、運動会の急ぐ音楽ですかね～
- メロディが懐かしい
- 掃除の時の曲
- チャイム、ほたるのひかり
- 校歌

■ ノスタルジーを感じる食事

<メンバーの親族>

- カレー麺
- 友達と食べる給食、ソフト麺
- 麦ごはん
- 麦ごはん
- 給食のパン
- おぼろ味噌麺(ソフト麺みたいなものらしいです)
- カレーライス、コッペパン
- 卵焼き
- 給食が無かった学校なので、母の作ってくれたお弁当、チューリップの唐揚げや甘い卵焼きを覚えています。
- ソフト麺
- 揚げパン
- 焼きそば、魚のフライ、鯨の煮付け、脱脂粉乳
- コッペパン、食パンになったとき
- 津餃子(大きめの揚げ餃子)、カレーライス、コッペパン、三角錐の紙パック牛乳
- 給食

- ソフト麺、ひな祭りのとき3色ゼリー、冷凍みかん
- 鬼饅頭
- カレーうどん
- カレーライス
- 揚げパン(砂糖がまぶしてある)、鯨肉の竜田揚げ、肝油(甘いドロップのようなもの)
- 脱脂粉乳のミルク

<質美関係者>

- きな粉パン
- 嫌いでしたが、同級生の間で話題にあがるのは脱脂粉乳のミルク
- たまにパン給食があり、脱脂粉乳が不味かったこと。
- お弁当、懐かしいです。
- お弁当
- 給食のコッペパンが美味しかった。
- 初めは、味噌汁のみの給食。それも金の器で熱くて持てなかったのを覚えている。
- そのころ(昭和26~32年頃)給食は味噌汁のみで、野菜は当番で持ち寄った。当時は各家でお味噌を作っていて、豆がごろごろして辛いものでしたが、給食の味噌は豆が細かくしてあって(今の味噌のように)とても美味しかった。
- くじらの唐揚げ
- 粉ミルクあまり好きではなかった
- 学校を休んだ時、パンとジャムを友達が家に持って来てくれた
- クジラの肉フライ
- カレー、コーヒー牛乳
- 牛乳とパン
- 味付けパン
- あげパン、カレー
- 全校での食事

参考資料 B：コッペパンメニューのレシピ

■ 揚げパン（きな粉揚げパン）

◇ 材料（1 個分）

- コッペパン（約 15 cm） 1 個
- サラダ油 適量
- きな粉 大さじ 1
- 砂糖 小さじ 2

◇ 作り方

- ① 油用鍋にサラダ油を入れ、170℃に熱する。
- ② サラダ油の温度が 170℃に達したらコッペパンを静かに入れる。
- ③ 菜箸でときどき返しながらか揚げ。
- ④ きな粉と砂糖を混ぜ合わせ、バットに広げておく（抹茶揚げパンの場合は砂糖入りの抹茶ミルクパウダーを広げる）。
- ⑤ パンの表面が硬くなってきたら（2分 30 秒くらい）、油を落としてパンを上げる。
- ⑥ きな粉が広げられたバットの上にパンを置き、回転させながら全体に粉をまぶした後、茶こしを使って上からも粉をかける。

■ コッペパン（黒豆きな粉コッペ）

◇ 材料（1 個分）

- コッペパン（約 15 cm） 1 個
- ホイップクリーム 適量
- 黒豆の煮豆：5 粒
- きな粉 大さじ 1
- 砂糖 小さじ 2

◇ 作り方

- ① 包丁でパンに切り目を縦方向に入れる。
- ② パンの切り目を開き、その底にホイップを縦に入れる。
- ③ パンを切った断面の一方に載せるようにホイップを波型に絞る。
- ④ 水分を切った黒豆をホイップの上に載せる。
- ⑤ きな粉と砂糖を混ぜ合わせ、茶こしで上からその粉をかける。

参考資料c：アンケート調査における自由回答

- 喫茶セットをいただきました。コーヒー&黒豆きな粉コップを頂きましたが、チョイスに揚げパンも追加があれば良かったです！
- 子供がとても喜んでいました。
- 今日はありがとうございます 質美在住ですが又新しい発見がございました 若い皆様が廃校した小学校を大切に思っておられる事がとてもうれしいです
- いつもとちがう雰囲気でもとても良かったです。やっぱり BGM が流れていると気分が落ち着いていいですね。とてもおいしかったです^^ ありがとうございます
- とてもおいしかったです。また、パンドーゾカフェにもおこしく下さい♪ありがとうございます！！
- すごくおいしかったです！
- とてもおいしかったです。おいしかったよありがとう
- もう少し調理（メニュー）のちがったものがあるのかと期待していたのですが、、、。
- 映写が見れない席も多くて気がつきにくいのが残念でした
- 楽しい休日になりました。
- ・コップパンはもう少し小さくてもよいのでは？・生クリームはもう少し甘さ控えでも…・黒豆おいしかったです。コーヒーも。
- 良い体験が出来ました。学生のみなさんの対応もあたたかみがありいやしになりました。料理もとてもおいしかったです。ありがとうございました。
- 給食をコンセプトとしたカフェに行ったことがなかったので、貴重な経験になりました。
- 貴重な経験ができました。ありがとうございました。
- 歴史のある建物を維持していくのは大変だと思います。大学生と地元の方のコラボが成功しますように。
- おいしかったです^^ 頑張ってください
- 若い人との交流が進められ、すてきなことだと思いました。いい機会に来訪できて良かったです。知人にもひょっこり出会えて。いい時間をありがとうございました。
- 旧質美小学校にとってもお似合いのカフェを企画実施してくださりありがとうございました。2日でしたが、とても嬉しかったです。
- ・とても面白く、楽しい試みで、わくわくした時間を過ごせました。ありがとうございます。・ノスタルジックに置き置くのであれば、服装や身なりも意識しても良かったのでは。(費用はかかってしまうが、衛生面も込みで)・プロジェクター投影やBGMも良いものではあるが、もう少しアートを意識しても良かったかも(複数台使用・視覚的に投入感をあげる)・みなさん、楽しそうに活動されているのがとても印象的で、見ているだけで、心あたたまり、ほってりしました。ガンバってください。
- 価格設定は良心的でありがたかったです！メニューについて、給食セットがあげパン、喫茶セットがコップパンを記載するよりも、4つのパンから選べるという表記にした方が見やすいかもしれないと思いました。より懐かしさを感じるために年代別の給食(フードモデルなど)を展示して視覚でのしめ

るスペースがあったら良いと思いました。(給食の歴史) 大学生の皆さんが、給食のおぼちゃ的ななかんじの服装で接客したら面白そうだなと思いました！！明るく笑顔で接客していただき、元気がもらえました🌟

- がつつり給食メニューが3つぐらいあってもすてきと思います。机とイスを小学校のものにしたらいいかなと、
- 質美小に大学生のみなさんがたくさん来てくださってすてきな cafe を開いてくださったのが嬉しいです。雰囲気も工夫があって、ノスタルジーを大切にしておられるんだなと思いました。質美は何もない田舎ですが、ここにしかない雰囲気が大好きです。これをきっかけに、また、たくさんの方がたちよってくださると嬉しいなと思います。立命館大学経済学部寺脇拓ゼミのみなさまありがとうございました😊
- 学校を訪れる機会が全くなくなって今回子供に誘われ久々に学校に入ってみてとてもなつかしく、当時は少し思い出しました。また機会があれば来たいです。
- コッペパン超美味しかったです😊発想が他には無い、個性的なものだなと思いました。ありがとうございます！謝謝^^
- へき地にお客さんを呼ぶ魅力をいかに考え、皆んなに発信するかが大事。後、持続的に続ける仕組みづくりができれば成功すると思う。
- シチューがおいしかったです。1歳と3歳の子どもと一緒に食べるのでできるメニューがあり、楽しく食事することができました。ありがとうございました。
- 質美小学校には、絵本ちゃんがあるので年に6回以上は来ています。私のいやしの場所にこんなすてきなカフェを作ってくださいありがとうございます。また、ぜひ企画して欲しいです。
- レトロブームだと思いました。再活用ステキ！
- 学校で教員をしているので、子どもだけではなく、私たちにとっても廃校の活用は身近でうれしいことだと思います。がんばってください。
- コッペパン、おいしかったよ。
- シチューおいしかったよ。
- パンとても美味しかった。昔を思い出した。
- パンがとてもおいしかった。
- 1回は珍しさもあり、良いと思う。ただ、リピートするかは、むずかしい。(設問の範囲のコンセプトなら)
- 子供(小学校)のころのことを思い出し、よかったです。
- 自分の子供の時に食べた給食を思い出せて、心地良い時間を過ごせました。
- 黒豆コッペとても美味しかったです！学校給食風な食事は、なかなか食べれるところが少ないので、とても興味がわきました。これからもがんばってください。
- チャイムが良い。
- 学校→誰でも行ける場所のイメージから価格が高い事に異和感がある。BGMはカフェのものよりも心地よかった。

- 面白い着眼点だと思います！若い方がノスタルジ的な雰囲気に興味を持ってくれることがとても嬉しい。逆に映えるみたいな感じがあると思います。店舗オーナーとしても長く親しまれる場所であり続けるために、これからもこの雰囲気を残しながら、進化していきたいです。皆さんも頑張ってください！美味しかったです😊
- 揚げパンとってもおいしかったです！！メニューが少しわかりづらかったですが、学生さんが丁寧に説明して対応してくださって、よかったです。給食セット→揚げパン、喫茶セット→コッペパンではなく、「パン4種類から選べます」だったらわかりやすかったかな？と思いました。
- 廃校でのカフェメニューのコンセプトがマッチしていて良かったです。自身が韓国のカフェがすきで沢山行っていますが、廃校だけではなく、工場や古民家を最低限のリフォームで営業したりととても勉強になります。カフェのメニューも現代的なものを取り入れて、顧客の年齢層の幅も広いので、メニューも給食の他にも現代的なものを取入れても良いかなと思いました。又学生さん達で運営することで付加価値がつくのでそれもステキなプロジェクトだなと思いました。ランチおいしかったです！！
- 旧質美小学校に通っていたため、大変懐かしく感じました。ランチも大変美味しかったです！
- 年代別のノスタルジメニューがあるとよいかも。・昭和初期~中期 牛乳パックはロカ△か、とか...・昭和後期~平成とか、カレーが食べたい。「そうそうこれこれ！なつかしいなー」と思えるようなメニューがあるといいなあ、テーブルのヨコに相合傘（絵）とか書いといてほしい。最終的には演出だと思う。
- 若い頃から、古道具やアンティークが好きでした。15年ほど前に古道具屋を開業して、色々な所で店舗を探していた所、10年前に、この質美小に辿り着きました もっともっと古い建物が好きですが、質美小の雰囲気と長〜い廊下が素敵で、ここで店を開くことにしました。古道具やアンティークと相性があるので、とっても気に入っています！全国の廃校が素敵な場所になる事を願っています。シチューあげパン牛乳、とっても懐かしく、サクフワのあげパンが最高！！牛乳フタ、記念にもらってきます！！
- 給食ベース、現代的メニューの二者択一にこだわらずに、両立させ来訪者が選択できる様にしてもよいのでは。廃校の雰囲気は施設自体で味わえるので、食事で大きく雰囲気が損なわれることはないと思います。選択肢が増える方が、楽しみ方が広がると思います。
- ⑭学校給食…なら、がつつり!!実際に給食で出されていたもの+αがいいな…と。おかわり有など当時の学校の様子になるべく近づけたものだと、よりノスタルジを感じられるのかな…と思いました！！スタッフさんが給食白衣などの演出もありかも… きなこ揚げパンの味、懐かしくて美味しかったです！！
- とても良い取組ですので頑張ってください😊